福岡県の中近世城館跡Ⅳ

―筑後地域・総括編―

附 . 福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡

福岡県文化財調査報告書第 260 集

2017

福岡県教育委員会

福岡県の中近世城館跡Ⅳ

―筑後地域・総括編―

附 . 福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡

福岡県文化財調査報告書第 260 集

序

今を 500 年ほど遡る中世から近世初頭にかけて、全国各地に数多くの城館が築かれました。福岡県も同様に、著名な山城から無名の小砦に至るまで非常に多くの城館が造られ、その数は現在知られているもので 1,000 箇所を超えています。戦乱の続く激動の時代の象徴とも言える遺跡として、今でもその痕跡を残すものも数多くあります。大内氏、大友氏、毛利氏、龍造寺氏、島津氏、黒田氏をはじめとした名だたる諸大名の諸将が鎬を削り、林立した諸勢力の盛衰の歴史を今に物語っています。

本県ではこれまで、埋蔵文化財包蔵地の詳細分布調査や各自治体史誌の編纂事業等をとおして、これら中近世城館遺跡の把握や周知を進めてまいりました。また、任意団体や個々の研究者によって踏査や縄張り図の作成等が行われ、個々の内容と歴史的重要性が次第に明らかになってきました。

一方、遺跡の詳細を未だ把握できていない中近世城館遺跡も多く存在しており、近年の開発事業等によりやむを得ず記録保存の対象となった事例も少なくありません。

こうした現状に対し、本県教育委員会では、県内に所在する全ての中近世城館遺跡を対象に総合的な緊急分布調査に取り組むこととし、平成 24 年度から調査に着手しました。本調査は遺跡の位置や時代、歴史的背景を可能な限り把握するとともに成果の体系的な整理と評価を行い、遺跡の周知化と保存活用に向けた理解を促進することを目的としています。

この度、最終巻として旧筑後国の調査成果を取りまとめることができました。既刊の旧筑前国・豊前国を対象とした３冊に続いての４冊目となり、福岡県下の調査・報告が揃うとともに、全体としての総括に至りました。また、今後の遺跡周知化・保存活用のため、附編として「福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡」も設けております。

本調査の実施並びに本書の刊行に当たり、調査指導委員会の委員の皆様、関係市町村をはじめ、多くの方々に多大なる御協力を得ましたことに心より感謝申し上げます。

平成 29 年３月 31 日

福岡県教育委員会教育長

城戸　秀明

例　言

1　本書は、福岡県教育委員会が国庫補助を受けて実施した福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査事業の報告書第４集であり、福岡県文化財調査報告書第 260 集にあたる。

2　本事業は県内に所在する中世・近世の城館跡および関連遺跡を対象とした悉皆分布調査事業であり、平成 24 年度から 28 年度まで調査を実施し、28 年度で全て報告書を刊行した。

3　本書では、平成 27 年度から 28 年度にかけて実施した福岡県内の筑後地域（旧郡の御原郡（小郡市（一部）・三井郡大刀洗町（一部））・御井郡（小郡市（一部）・三井郡大刀洗町（一部））・久留米市（一部））・三潴郡（久留米市（一部）・大川市・三潴郡大木町・柳川市（一部）・筑後市（一部））・山本郡（久留米市（一部））・竹野郡（久留米市（一部）・三井郡大刀洗町（一部）・うきは市（一部））・生葉郡（うきは市（一部）・八女市（一部））・上妻郡（八女市（一部）・筑後市（一部）・八女郡広川町）・下妻郡（八女市（一部）・筑後市（一部）・みやま市（一部））・山門郡（柳川市（一部）・みやま市（一部））・三池郡（大牟田市・みやま市（一部））の旧 10 郡、７市３町に所在する約 290 箇所の中世・近世の城館跡、城館等伝承地、城館関連遺跡を報告対象とした。また、県内所在の近世台場・遠見番所・烽火台跡についても、関連遺跡として調査を行い、附編として「福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡」も併せ掲載した。

4　調査については福岡県中近世城館遺跡詳細分布調査指導委員会の指導と承認のもとに実施した。

5　本書に掲載した縄張り図および遺構実測図は、事務局で作成したもの以外は全て出典を明示し、縄張り図については作成者もしくは作成機関名を明示した。

事務局にて作成した縄張り図の作成および製図は岡寺　良（九州歴史資料館）が担当した。

6　本書に掲載した写真は明示したもの以外は事務局にて撮影したものであり、岡寺が担当した。

7　本書の執筆分担は目次に示したとおりである。

8　本書の編集は岡寺が担当した。

目　次

Ⅰ　はじめに ……（坂元雄紀） 1
　1　調査に至る経過 …… 1
　2　調査の経過 …… 1
　3　調査の組織 …… 3
Ⅱ　調査の方法 ……（岡寺　良） 5
　1　調査の進め方と方法 …… 5
Ⅲ　対象地域城館一覧 ……（岡寺） 10
Ⅳ　対象地域城館分布図 ……（岡寺） 35
Ⅴ　個別城館報告 ……（岡寺） 67
　1　中世城館 …… 68
　　①御原郡 …… 68
　　②御井郡 …… 70
　　③三潴郡 …… 78
　　④山本郡 …… 84
　　⑤竹野郡 …… 92
　　⑥生葉郡 …… 103
　　⑦上妻郡 …… 124
　　⑧下妻郡 …… 144
　　⑨山門郡 …… 148
　　⑩三池郡 …… 158
　2　近世城館 …… 163
　3　城館等伝承地 …… 183
　4　城館関連遺跡 …… 184
Ⅵ　城館関連文献史料一覧 ……（酒井芳司）199
Ⅶ　城館関連地名一覧 ……（岡寺）223
Ⅷ　うきは市長岩城跡発掘調査報告 ……（飛野博文）227
Ⅸ　『福岡県の中近世城館跡Ⅰ～Ⅲ』の補遺 ……（岡寺）230
　1　個別城館報告 ……（岡寺）231
　2　城館関連文献史料一覧 ……（酒井）240
Ⅹ　総括 ……249
　はじめに－福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査事業について ……（岡寺）249
　1　福岡県の中近世城館の歴史的概観 ……（酒井）250
　2　福岡県の中世城館跡の構造的特徴 ……（中井　均）258
　3　海岸堡－ Beachhead ……（服部英雄）264
　4　福岡県における遺跡としての中近世城館 ……（西谷　正）269
　5　総括－福岡県の中近世城館の様相と特徴 ……（岡寺）272
　おわりに－今後に向けて ……（岡寺）282

附．福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡 …… （岡寺）284
1　福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台の歴史的概要 …… （岡寺）284
2　個別報告 …… （岡寺）286
⑴福岡藩 …… 286
⑵小倉藩 …… 295
⑶久留米藩 …… 302
⑷柳川藩 …… 302
⑸中津藩 …… 307
⑹その他 …… 309
3　遠見番所・烽火台・台場関連文献史料一覧 …… （松川博一・酒井・一瀬　智）310
索　引（筑後地域編） …… 326

挿　図　目　次

第１図　「浮羽郡古城址とその歴史」に掲載された福岡縣浮羽郡内古城分布図 …… 7
第２図　山隈城遠景 …… 68
第３図　夜須郡四三島村山隈山古城図（『古戦古城図』のうち）（部分・国立公文書館蔵）… 68
第４図　山隈城縄張り図（文献 128・岡寺　良作成） …… 68
第５図　三原城測量図（文献 64） …… 69
第６図　『大刀洗町史』に掲載された「三原城図」（左）と「三原城間どり図」（右）（文献 29 から転載） …… 69
第７図　鰺坂城々内全略図（文献 123） …… 70
第８図　西鰺坂城航空写真（昭和 23 年・国土地理院撮影） …… 70
第９図　西神代字図（久留米市蔵・文献９から転載） …… 71
第 10 図　地図に表れた神代館の堀（陸地測量部発行 1/25,000 地形図「久留米」）（大正 15 年測量・福岡県立図書館提供） …… 71
第 11 図　神代館航空写真（昭和 23 年・国土地理院撮影） …… 71
第 12 図　鶴ヶ城近くからの久留米市街の眺め …… 71
第 13 図　鶴ヶ城の堀切（上）と畝状空堀群（下） …… 72
第 14 図　鶴ヶ城縄張り図（事務局作成） …… 72
第 15 図　毘沙門岳城堀切（上）・横堀（下） …… 73
第 16 図　毘沙門岳城縄張り図（事務局作成） …… 73
第 17 図　毘沙門岳城遠景 …… 74
第 18 図　杉ノ城堀切（上）・横堀（下） …… 74
第 19 図　杉ノ城石垣 …… 75
第 20 図　杉ノ城縄張り図（事務局作成） …… 75
第 21 図　吉見岳城縄張り図（事務局作成） …… 76
第 22 図　吉見岳城主郭の土塁（左）・堀切（右） …… 77
第 23 図　海津城縄張り復元図（文献 72） …… 78

第 24 図　耕地整理前（大正 6 年）の海津城付近地図（赤い枠線が上図のおよその範囲。陸地測量部大正 6 年測量「久留米西部」（福岡県立図書館提供）を一部改変して作成）…… 78
第 25 図　田川高良社（周囲より一段高くなっている）…… 79
第 26 図　田川城周辺現況図（久留米市提供図を一部改変して事務局作成）…… 79
第 27 図　大正 6 年当時の犬塚城周辺地図（陸地測量部測量 1/25,000 地形図『久留米西部』（福岡県立図書館提供））…… 80
第 28 図　水路土居（左）と犬塚城「陣堀」…… 80
第 29 図　犬塚城周辺図（久留米市提供図を一部改変して事務局作成。図は現在の地割を示し、網掛部は推定城域を示す。）…… 80
第 30 図　生津城跡図（文献 20）…… 81
第 31 図　昭和 23 年の生津城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 81
第 32 図　酒見城跡図（文献 20）…… 82
第 33 図　昭和 23 年の酒見城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 82
第 34 図　明治 21 年頃の酒見城周辺字図（『筑後国三潴郡酒見村ノ図』（部分・大川市教育委員会蔵・柳川古文書館保管））…… 82
第 35 図　現在の酒見城周辺地形図（大川市教育委員会提供図を一部改変して作成）…… 82
第 36 図　昭和 23 年当時の津村城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 83
第 37 図　津村城周辺地形図（大川市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成。網掛部は水路）…… 83
第 38 図　飯田館推定地東側の水路 a と道路 …… 84
第 39 図　飯田館周辺地形図（久留米市提供図を一部改変して事務局作成）…… 84
第 40 図　文献 24 に書かれた竹井城と物見櫓 …… 85
第 41 図　竹井城本城部主郭 …… 85
第 42 図　竹井城本城部堀切…… 85
第 43 図　竹井城「物見櫓」の堀切 …… 86
第 44 図　竹井城縄張り図（事務局作成）…… 86
第 45 図　竹井城「物見櫓」縄張り図（事務局作成）…… 86
第 46 図　発心城遠景…… 86
第 47 図　文献 24 に描かれた発心城 …… 87
第 48 図　発心城・周辺城館位置図（国土地理院発行 1/25,000 地形図「草野」を一部改変して事務局作成）…… 87
第 49 図　発心城（本城部）からの眺め（上）・本城部曲輪Ⅰ（下）…… 87
第 50 図　発心城（本城部）縄張り図（事務局作成）…… 88
第 51 図　「蔵所」の土塁遺構 …… 89
第 52 図　「蔵所」縄張り図（事務局作成）…… 89
第 53 図　文献 119 に記された「上・中・下ノ城」…… 90
第 54 図　「上ノ城」・「中ノ城」・「下ノ城」縄張り図（事務局作成）…… 90
第 55 図　「上ノ城」曲輪面（上）・堀切（中）と「下ノ城」堀切（下）…… 91
第 56 図　西葛尾城堀切（上・中）・石垣状遺構（下）…… 92

第 57 図　西葛尾城縄張り図（事務局作成）…… 92
第 58 図　内山館見取り図（原書では「内山城平面」・文献 118）…… 93
第 59 図　内山城略図（文献 121）…… 93
第 60 図　内山城付近からの眺め（上）・内山城堀切（下）…… 94
第 61 図　内山城縄張り図（事務局作成）…… 94
第 62 図　高野城遠景 …… 95
第 63 図　高野城縄張り図（事務局作成）…… 95
第 64 図　高丸城主郭 …… 95
第 65 図　高丸城堀切 …… 96
第 66 図　高丸城・小丸城縄張り図（事務局作成）…… 96
第 67 図　小丸城遠景（上）・推定堀切断面（下）…… 97
第 68 図　伐採以前に作成された小丸城縄張り図（中村修身氏作成・提供）…… 97
第 69 図　伐採・シダ繁茂後の現状の小丸城縄張り図（事務局作成）…… 97
第 70 図　平家城曲輪 …… 98
第 71 図　平家城縄張り図（事務局作成）…… 98
第 72 図　山ノ中城縄張り図（事務局作成）…… 99
第 73 図　山ノ中城遠景（左）・堀切（中）・遺物散布状況（右）……100
第 74 図　新田城遠景（左）・曲輪Ⅰ（右）……100
第 75 図　新田城縄張り図（事務局作成）……101
第 76 図　菅館周辺図（うきは市教育委員会提供図面を一部改変して事務局作成。網掛部は水路を示す）……102
第 77 図　昭和 23 年当時の菅館周辺航空写真（国土地理院撮影）……102
第 78 図　鷹取山城縄張り図（岡寺　良作成）……103
第 79 図　鷹取山城からの眺め（左・筑後平野方面）・曲輪群（中・奥は八女方面）・畝状空堀群（右）……104
第 80 図　西の城縄張り図（事務局作成）……104
第 81 図　文献 118 に描かれた妙見（明頭）城配置図 ……105
第 82 図　妙見城畝状空堀群（上）・堀切（下）……105
第 83 図　妙見城縄張り図（事務局作成）……106
第 84 図　妙見城曲輪群Ⅵの石垣 ……107
第 85 図　谷山城堀切 ……108
第 86 図　谷山城縄張り図（事務局作成）……108
第 87 図　『生葉郡内絵図』（個人蔵）に記された「平家城」……108
第 88 図　平家城遠景 ……108
第 89 図　平家城跡現況図（事務局作成）……109
第 90 図　福丸城縄張り図（事務局作成）……110
第 91 図　文献 118 掲載の福丸城側面図（実際に存在するのは真ん中の出丸から左部分のみ）……110
第 92 図　福丸城の曲輪 ……110
第 93 図　満願寺城遠景（上・妹川から）・堀切（下）……111
第 94 図　満願寺城縄張り図（事務局作成）……111
第 95 図　安山城縄張り図（事務局作成）……112

第 96 図　安山城および周辺城館遠景 …… 113
第 97 図　井上城からの眺め（上）・井上城及び西ノ城遠景（下）…… 113
第 98 図　井上城・西ノ城縄張り図（事務局作成）…… 114
第 99 図　井上館周辺図（うきは市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成）…… 115
第 100 図　昭和 23 年当時の井上館周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 115
第 101 図　日田氏館跡図（『生竹巡覧』のうち・篠山神社蔵）…… 116
第 102 図　隈ノ上城址見取図（文献 118）…… 116
第 103 図　昭和 23 年当時の隈ノ上城周辺航空写真（国土地理院撮影・北側の濠が明瞭に見える）…… 116
第 104 図　隈ノ上城地割図（うきは市教育委員会提供図面を一部改変して事務局作成）… 116
第 105 図　長瀬城主郭（城丸土神社）…… 117
第 106 図　長瀬城・鵜木城周辺航空写真（昭和 38 年・国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 117
第 107 図　長瀬城周辺地割図（網掛部が城跡。うきは市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成）…… 117
第 108 図　高井岳城遠景 …… 118
第 109 図　高井岳城縄張り図（事務局作成）…… 118
第 110 図　長岩城石垣（上）・曲輪（中・長岩説教所）・長岩城Ⅱ遠景（下・中央に立神岩）…… 119
第 111 図　長岩城縄張り図（事務局作成）…… 120
第 112 図　松尾城縄張り図（事務局作成）…… 121
第 113 図　松尾城遠景（上）・曲輪面（中）・竪堀群（下）…… 121
第 114 図　松尾城近くの千人塚 …… 121
第 115 図　高岩城遠景（上）・堀切（下）…… 122
第 116 図　高岩城縄張り図（事務局作成）…… 122
第 117 図　白石城曲輪（上）・堀切（下）…… 123
第 118 図　白石城縄張り図（事務局作成）…… 123
第 119 図　アイノツル城跡図（『山土産』のうち。久留米市立中央図書館蔵）…… 124
第 120 図　アイノツル城跡の現状（茶畑）…… 124
第 121 図　高屋城遠景 …… 124
第 122 図　高屋城縄張り図（事務局作成）…… 125
第 123 図　高屋城からの眺め …… 125
第 124 図　築足城縄張り図（事務局作成）…… 125
第 125 図　地下名城主郭 …… 126
第 126 図　地下名城縄張り図（事務局作成）…… 126
第 127 図　高牟礼城遠景（奥側の山）…… 126
第 128 図　高牟礼城縄張り図（事務局作成）…… 127
第 129 図　高牟礼城曲輪ⅠとⅡの間の土塁ライン（上）・曲輪Ⅱの横堀（下）…… 128
第 130 図　熊野堂城遠景 …… 128
第 131 図　熊野堂城縄張り図（事務局作成）…… 128
第 132 図　猫尾城遠景（上）（左奥には高牟礼城）・石垣 a（下）…… 129

第 133 図　猫尾城出土桐文軒丸瓦（文献 91）…… 129
第 134 図　猫尾城跡で検出された石組井戸（文献 91）…… 129
第 135 図　猫尾城縄張り図（文献 127・木島孝之作成）…… 130
第 136 図　兎城堀切 …… 131
第 137 図　兎城縄張り図（事務局作成）…… 131
第 138 図　生駒野城遠景（左）・A 地点武者溜まり状の窪み（写真左側に土塁が見える）（右）…… 131
第 139 図　生駒野城縄張り図（事務局作成）…… 132
第 140 図　熊ノ川城横堀 …… 132
第 141 図　熊ノ川城縄張り図（事務局作成）…… 133
第 142 図　高朶城縄張り図（事務局作成）…… 133
第 143 図　高朶城堀切 …… 134
第 144 図　山下城縄張り図（事務局作成）…… 134
第 145 図　山下城遠景（堀切 B 近くから A 方向を望む）（上）・堀切 A （下）…… 135
第 146 図　国見岳城遠景（上）・横堀（下）…… 135
第 147 図　国見岳城縄張り図（事務局作成）…… 136
第 148 図　山崎城遠景（左）・堀切（右）…… 136
第 149 図　山崎城縄張り図（事務局作成）…… 137
第 150 図　兼松城堀切 …… 137
第 151 図　兼松城縄張り図（事務局作成）…… 138
第 152 図　三ノ瀬城遠景 …… 138
第 153 図　三ノ瀬城縄張り図（事務局作成）…… 139
第 154 図　谷川城縄張り図（文献 131・岡寺　良作成）…… 139
第 155 図　谷川城堀切 …… 140
第 156 図　犬尾城縄張り図（文献 129・岡寺　良作成）…… 140
第 157 図　鷹尾城縄張り図（文献 129・岡寺　良作成）…… 141
第 158 図　鬼ノ口城堀切（上）・石垣（下）…… 142
第 159 図　鬼ノ口城縄張り図（事務局作成）…… 142
第 160 図　昭和 23 年当時の知徳城航空写真(国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成)…… 143
第 161 図　知徳城Ⅰの東側の横堀状遺構 …… 143
第 162 図　知徳城縄張り図（事務局作成）…… 143
第 163 図　下牟田館周辺図（青は圃場整備前のクリーク・文献 146 掲載図を一部改変して事務局作成）…… 144
第 164 図　昭和 23 年当時の下牟田館周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 144
第 165 図　禅院城土塁（上）・石垣（中）・堀切（下）…… 145
第 166 図　禅院城縄張り図（事務局作成）…… 146
第 167 図　小田城石垣（上）・横堀（下）…… 146
第 168 図　小田城縄張り図（事務局作成）…… 147
第 169 図　宮園城周辺地形図（みやま市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成）… 148
第 170 図　昭和 23 年当時の宮園城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 148

第 171 図　明治 20 年代初期頃の宮園城周辺字図（『筑後国山門郡大廣園村絵図』（部分）・柳川みやま土木組合蔵）…… 148
第 172 図　明治 20 年代初期の濱田城周辺字図（『筑後国山門郡濱田村絵図』（部分）・柳川みやま土木組合蔵）…… 149
第 173 図　濱田城周辺地形図（みやま市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成）…… 149
第 174 図　昭和 37 年当時の竹井館周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 150
第 175 図　竹井館周辺地形図（みやま市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成）…… 150
第 176 図　竹井館土塁状遺構 …… 151
第 177 図　飯江城縄張り図（事務局作成）…… 151
第 178 図　飯江城遠景 …… 152
第 179 図　白鳥之古戦場碑と水路（左）・水路に沿った土手状の高まり（右）…… 152
第 180 図　明治 20 年代初期の白鳥古戦場周辺の字図（『筑後国山門郡白鳥村絵図』（部分）・柳川みやま土木組合蔵）…… 152
第 181 図　白鳥城推定地周辺地形図（柳川市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成）…… 153
第 182 図　明治 20 年代初期の津留城周辺の字図（『筑後国山門郡六合村絵図』（部分）・柳川みやま土木組合蔵）…… 153
第 183 図　津留城の水堀と考えられる水路 …… 154
第 184 図　昭和 37 年当時の津留城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 154
第 185 図　津留城周辺地形図（柳川市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成）…… 154
第 186 図　明治 20 年代初期の蒲船津城周辺字図（『筑後国山門郡蒲船津村絵図』（部分）を一部改変して事務局作成）…… 155
第 187 図　蒲船津城周辺地形図（柳川市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成）…… 155
第 188 図　昭和 23 年当時の蒲船津城周辺航空写真（国土地理院撮影）…… 156
第 189 図　塩塚城趾碑 (左)・百八人塚（右）…… 156
第 190 図　昭和 37 年当時の塩塚城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 156
第 191 図　明治 20 年代初期の塩塚城周辺字図（『筑後国山門郡塩塚村絵図』（部分）・柳川みやま土木組合蔵）…… 157
第 192 図　塩塚城周辺地形図（柳川市教育委員会提供図（平成 5 年測量）を一部改変して事務局作成）…… 157
第 193 図　今福城遠景 …… 158
第 194 図　今福城縄張り図（事務局作成）…… 158
第 195 図　飛塚城遠景 …… 159
第 196 図　飛塚城縄張り図（事務局作成）…… 159
第 197 図　内山城周辺地形図（文献 98 掲載図を一部改変して事務局作成）…… 160
第 198 図　内山城跡礎石建物・柵平面図（文献 98）…… 160
第 199 図　昭和 23 年当時の大間城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成。白破線は城の推定範囲を示す。）…… 161
第 200 図　三池山城主郭 I の「三池」（左）・三池山城堀切（右）…… 162
第 201 図　三池山城縄張り図（事務局作成）…… 162

第 202 図　昭和 23 年当時の松崎陣屋周辺航空写真（国土地理院提供写真を一部改変して事務局作成）……163
第 203 図　昭和 23 年当時の赤司城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）……164
第 204 図　赤司城址図（文献 24）……164
第 205 図　赤司城復元図（文献 127・木島孝之作成）……164
第 206 図　明治初期の久留米城本丸（写真提供：久留米市）……165
第 207 図　天保年間の久留米城（『天保時代久留米城下地図』（部分）・久留米市蔵）……165
第 208 図　久留米城本丸南側石垣……165
第 209 図　久留米城本丸南虎口の石垣……165
第 210 図　延宝年間の久留米城下（『延宝八年製図久留米市街図』（久留米市蔵））……166
第 211 図　御城本丸絵図（篠山神社蔵）……167
第 212 図　昭和 23 年当時の城島城跡周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）……168
第 213 図　『城島城絵図』（写）（九州大学附属図書館付設記録資料館蔵「桧垣文庫」のうち）……168
第 214 図　城島城跡推定図（文献 127）……169
第 215 図　明治 20 年代初期の榎津城周辺字図（『筑後国三潴郡榎津町之図』（部分）・大川市教育委員会蔵・柳川古文書館保管）……169
第 216 図　榎津城周辺地形図（大川市教育委員会提供図を一部改変して事務局作成）……170
第 217 図　福島城本丸跡の櫓台跡（上）・福島城の水堀の名残（福島八幡宮・下）……170
第 218 図　福島城復元図（文献 125）……171
第 219 図　福島古城図（篠山神社蔵）……171
第 220 図　明治期の福島城周辺地図（陸地測量部作成 1/20,000 地形図「筑後福島」（明治 33 年測量・福岡県立図書館提供）……172
第 221 図　昭和 23 年当時の福島城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）……172
第 222 図　明治 20 年代初期頃の松延城周辺字図（『筑後国山門郡松延村絵図』と『筑後国山門郡山門村絵図』（共に部分・柳川みやま土木組合蔵）を合成して事務局作成）……173
第 223 図　昭和 23 年当時の松延城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）……173
第 224 図　松延城推定図（文献 127・1973 年の地形図使用）……174
第 225 図　田尻親種墓碑（柳川市指定史跡・鷹尾城推定地付近に建つ）……174
第 226 図　鷹尾城絵図（『田尻家文書』のうち。親種寺蔵・柳川古文書館写真提供）……175
第 227 図　『鷹尾城絵図』（第 226 図）のうち鷹尾城主要部分……175
第 228 図　明治 20 年代初期頃の鷹尾城周辺字図（『筑後国山門郡鷹ノ尾村絵図』（部分）・柳川みやま土木組合蔵））……176
第 229 図　昭和 23 年当時の鷹尾城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）……176
第 230 図　『鷹尾城絵図』（第 226 図）に描かれた中島城（「才兵衛へとり遣し候城」）……176
第 231 図　明治 20 年代初期頃の中島城周辺字図（『筑後国山門郡中島村絵図』（部分）・柳川みやま土木組合蔵）……177

第 232 図　描かれた柳川城天守（『柳河明証図会』のうち「其二五重殿守」・立花家史料館蔵・柳川古文書館保管・写真提供）…… 177
第 233 図　現在の柳川城天守台（上）・矢穴痕跡の残る石垣石材（下）…… 177
第 234 図　昭和 23 年当時の柳川城航空写真（国土地理院撮影）…… 178
第 235 図　『御城御絵図』（伝習館文庫）（福岡県立伝習館高等学校蔵・柳川古文書館保管・写真提供）…… 178
第 236 図　『御家中絵図』（旧柳河藩主立花家史料）（立花家史料館蔵・柳川古文書館保管・写真提供）…… 179
第 237 図　昭和 23 年当時の江浦城周辺航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 180
第 238 図　三池陣屋石橋（上）・石段（中）・建物（下・現三池郷土館）…… 181
第 239 図　元三池陣屋地図（大牟田市立三池カルタ・歴史民俗資料館蔵）…… 182
第 240 図　峯切山採集遺物（黒木高校蔵）実測図（文献 36）…… 183
第 241 図　干潟中屋敷遺跡土塁実測図（文献 43）…… 184
第 242 図　三沢寺小路遺跡調査地位置図（文献 60）…… 184
第 243 図　三沢寺小路遺跡３・５地点平面図（文献 57）…… 184
第 244 図　大保横枕遺跡平面図（文献 59・黒塗りは中世期の遺構）…… 185
第 245 図　稲吉元矢次遺跡遺構平面図（文献 54）…… 185
第 246 図　西森田遺跡遺構平面図（文献 61）…… 186
第 247 図　下見遺跡第５～９次調査遺構配置図（文献 37）…… 187
第 248 図　下見遺跡Ⅲ期の遺構配置模式図（文献 37）…… 187
第 249 図　昭和 23 年当時の「立石土塁」航空写真（国土地理院撮影写真を一部改変して事務局作成）…… 187
第 250 図　筑後国府跡「方形居館」遺構配置図（左・文献 67）・「立石土塁」平面図（右・文献 81）…… 188
第 251 図　東光寺遺跡Ⅳ区遺構平面図（文献 66）…… 188
第 252 図　神道遺跡主要遺構配置図（文献 83）…… 189
第 253 図　日出原南遺跡４次Ｂ～Ｄ区遺構配置図（文献 84）…… 189
第 254 図　古賀前遺跡主要遺構配置図（文献 77）…… 190
第 255 図　二子塚遺跡５次調査遺構配置図（文献 85・アミカケは中世の溝）…… 190
第 256 図　城崎遺跡中世主要遺構配置図（文献 75）…… 191
第 257 図　道蔵遺跡主要遺構配置図（文献 74）…… 191
第 258 図　北ノ屋敷遺跡遺構配置図（文献 88）…… 192
第 259 図　仁右衛門畑遺跡古代以降の主要遺構配置図（文献 52）…… 192
第 260 図　東館遺跡石垣・石段・柱穴列（上）・石垣内部から検出された礎石列（下）（八女市提供）…… 193
第 261 図　東館遺跡居館部遺構配置図（文献 89）…… 193
第 262 図　熊野屋敷遺跡土塁状遺構実測図（文献 93）…… 194
第 263 図　長崎坊田遺跡調査区Ｂ主要遺構配置図（文献 92）…… 194
第 264 図　彼岸田遺跡主要遺構配置図（文献 130）…… 195
第 265 図　陣内遺跡遺構配置図（文献 96）…… 195
第 266 図　陣内遺跡と城前遺跡遠景（左・手前の水田が陣内遺跡・奥の鉄塔が城前遺跡）・城前遺跡の横堀状遺構（右）…… 196

第 267 図　城前遺跡縄張り図（事務局作成）……196
第 268 図　城前遺跡と陣内遺跡の位置関係図（みやま市教育委員会提供図面を一部改変して事務局作成）……196
第 269 図　上内高頭遺跡溝状遺構（SD-01）平面図（文献 101）……197
第 270 図　白川遺跡 B-1・2 地区遺構平面図（文献 102）……197
第 271 図　上白川遺跡遺構平面図・断面図（文献 99）……198
第 272 図　長岩城跡遺構配置図（1/200）……227
第 273 図　長岩城跡周辺地形図および縄張り図（1/2,000）……228
第 274 図　長岩城跡発掘調査区写真……229
第 275 図　天ヶ城位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「二日市」を一部改変して事務局作成）……231
第 276 図『御笠郡天山村柴田故城之図』（国立公文書館蔵）に描かれた「天ヶ城」……231
第 277 図　天ヶ城縄張り図（事務局作成）……231
第 278 図　扇山城位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「大隈」を一部改変して事務局作成）……232
第 279 図　扇山城縄張り図（A ～ D 地区・事務局作成）……232
第 280 図「穂波郡阿恵村扇山古城図」（部分・『古戦古城之図』のうち。国立公文書館蔵）……233
第 281 図　扇山城縄張り図（E ～ L 地区・事務局作成）……234
第 282 図　大丸城からの眺め（上・油山が見える）・主郭（中）・石垣（下）……236
第 283 図　大丸城縄張り図（事務局作成）……236
第 284 図　城山砦縄張り図（事務局作成）……237
第 285 図　大将陣（矢留山）遠景……238
第 286 図　大将陣縄張り図（若枚善満作成・提供）……238
第 287 図　猿尾の陣主郭（上）・堀切（下）……239
第 288 図　猿尾の陣縄張り図（事務局作成）……239
第 289 図　福岡県内主要中近世城館位置図……250
第 290 図　飯盛城石垣……259
第 291 図　山家城石垣……259
第 292 図　武名ヶ平城跡略測図（島根県教育委員会 1988『島根県中近世城館跡分布調査報告書（第 2 集）出雲・隠岐の城館跡』から転載）……261
第 293 図　太閤ヶ平本陣周辺の縄張図（西尾孝昌氏作図）……262
第 294 図　上山田陣城跡概要図（中井均作図）……263
第 295 図　福岡市御飯ノ山城跡測量図（福岡市教育委員会 2000）……271
第 296 図　福岡市香椎 B 遺跡遺構平面図（福岡市教育委員会 2000）……271
第 297 図　県内の中世の大規模城館の事例（左：立花山城・右：古処山城）……273
第 298 図　県内の石垣を用いた中世城館の事例（左：鷺ヶ岳城・中：安楽平城・右：一ノ岳城）……273
第 299 図　県内の畝状空堀群を多用する中世城館の事例……275
第 300 図　九州における畝状空堀群を構築する中世城館分布図（岡寺 2016b）……276
第 301 図　県内の多重横堀を構築する中世城館の事例（左：高尾山城・中：馬場城・右：小田城）……277

第 302 図　三岳城周辺城館位置図 …… 278
第 303 図　永禄 11 年三岳合戦における陣城配置考察図（岡寺 2016b）…… 278
第 304 図　松山城縄張り図 …… 279
第 305 図　御城絵図（柳川城）（福岡県立伝習館高等学校蔵・柳川古文書館保管・写真提供）…… 280
第 306 図　福岡県内の近世台場・遠見番所・烽火台跡位置図 …… 285
第 307 図　『志摩郡形相図』（部分・福岡県立糸島高等学校蔵）に描かれた芥屋遠見番所（写真提供：糸島市教育委員会）…… 286
第 308 図　「浦嶋遠見番所灯篭堂急用丸囲上屋共図」（『林文書』九州歴史資料館蔵）に描かれた遠見番所 …… 287
第 309 図　芥屋遠見番所跡位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「芥屋」を一部改変して事務局作成）…… 288
第 310 図　芥屋遠見番所跡に散布する瓦 …… 288
第 311 図　相島遠見番所位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「津屋崎」を一部改変して事務局作成）…… 288
第 312 図　『藍嶋絵図』（部分・岩国徴古館所蔵）に描かれた「物見番所」…… 288
第 313 図　相島遠見番所現況平面図（事務局作成）…… 288
第 314 図　相島遠見番所「物見櫓」石垣遺構（左）・遺物散布状況（右）…… 289
第 315 図　『遠賀郡海岸形相図』に描かれた岩屋遠見番所（部分・福岡市博物館蔵）…… 289
第 316 図　地島遠見番所位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「神湊」を一部改変して事務局作成）…… 289
第 317 図　地島遠見番所現況平面図（事務局作成）…… 290
第 318 図　地島遠見番所遠景（左）・瓦散布状況（中）・石垣遺構（右）…… 290
第 319 図　『筑前三笠郡岩谷城図』（個人蔵）に描かれた烽火台 …… 290
第 320 図　『長州戦争図』（部分・北九州市自然史・歴史博物館蔵）に描かれた名古屋崎台場 …… 291
第 321 図　波奈台場跡地（午砲場跡）…… 291
第 322 図　『福岡城之図』（1898 年・福岡市 1968 から転載）に描かれた福岡城下の台場 …… 292
第 323 図　洲崎台場跡地現況平面図（事務局作成）…… 292
第 324 図　洲崎台場の石垣（左上）・石垣外側の石材（右上）・内側の石材（左下）・盛土状の高まり（右下）…… 293
第 325 図　能古台場推定地位置図（国土地理院作成 1/25,000「福岡西部」を一部改変して事務局作成）…… 293
第 326 図　能古台場推定地の石列（左・奥に志賀島が見える）・推定地崖下にあった鉄鎖（右）…… 294
第 327 図　能古台場推定地周辺平面図（事務局作成）…… 294
第 328 図　姪浜（小戸）台場周辺平面図（事務局作成）…… 294
第 329 図　姪浜台場石垣・石段 …… 295
第 330 図　姪浜台場位置図（国土地理院作成 1/25,000「福岡西部」を一部改変して事務局作成）…… 295
第 331 図　『長州戦争図』（左）と『小倉領藍嶋略図』（右）（共に北九州市自然史・歴史博物館蔵）に描かれた境鼻遠見番所 …… 295

第 332 図　藍島遠見番所旗柱石位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「六連島」を一部改変して事務局作成）……296
第 333 図　藍島遠見番所旗柱石（左・福岡県指定史跡）・『小倉領藍嶋略図』（部分・北九州市自然史・歴史博物館蔵）に描かれた藍島遠見番所と旗柱（右）……296
第 334 図　魯山城内に確認される烽火台と推測される痕跡位置図（●で示す）……297
第 335 図　『長門国対岸ノ図』（福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会蔵）……297
第 336 図　『小倉西市中図』（福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会蔵・左端に「西臺場」の文字が見える。左が北）……298
第 337 図　『沓尾ノ図』（福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会蔵）……298
第 338 図　『宇ノ嶋ノ図』（福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会蔵）……299
第 339 図　『金部峠江引揚ノ節備配龍ヶ鼻刀掛ヨリ周囲ヲ見ル図』（福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会蔵）……300
第 340 図　鈴ヶ岩屋から小倉方面の眺め……301
第 341 図　『狸山諸備持場ノ図』（福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会蔵）……301
第 342 図　御牧山山頂の現況……302
第 343 図　柳川藩内の番所絵図（1）（立花家史料館蔵・柳川古文書館保管・写真提供）…303
第 344 図　柳川藩内の番所絵図（2）（立花家史料館蔵・柳川古文書館保管・写真提供）…304
第 345 図　柳川藩内の番所絵図（3）（立花家史料館蔵・柳川古文書館保管・写真提供）…305
第 346 図　『柳河明証図会』に描かれた宇治番所（沖端宇治番所）と新田番所（立花家史料館蔵・柳川古文書館保管・写真提供）……306
第 347 図　配崎山遠見番所位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「芥屋」を一部改変して事務局作成）……307
第 348 図　配崎山遠見番所石垣・吹抜差立石（上）・礎石列（下）（写真提供：糸島市教育委員会）……307
第 349 図　配崎山遠見番所平面図（二丈町教育委員会 2006 から転載）……307
第 350 図　雄熊山烽火台位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「中津」を一部改変して事務局作成））……308
第 351 図　雄熊山烽火台全景（上）・焚口部分（中・下）……308
第 352 図　雄熊山烽火台現況平面図（事務局作成）……308
第 353 図　「久留米藩の大里船入場」（浅野 1939 から転載）……309

表　目　次

第 1 表　福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会委員名簿……1
第 2 表　福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会の経過（平成 28 年度）……2
第 3 表　福岡県内の中世の主な拠点城館一覧……272

Ⅰ　はじめに

1　調査に至る経過

古代の防衛施設である大野城跡、基肄城跡、水城跡という特別史跡が存する本県では、九州歴史資料館を中心とした継続的な古代山城の調査研究をはじめ、保護のみならず整備・活用を図ってきた。また、８ヶ所の神籠石系山城も国史跡であるだけでなく、知識・技術を注いで研究者、行政それぞれの場で充実が図られている文化財として十分に周知されている。

一方で、中世以降近世初期までの間に築造された、山城を中心とする数多くの城館・城郭遺跡については、これまで県および市町村が実施した遺跡詳細分布調査や重要遺構確認調査、県史・市町村史編纂事業を通じて把握に努めてきた。また、任意団体や個々の研究者によって地道に続けられた調査研究成果の蓄積は著しく、本県における中近世城館研究の進展はこれに負うところが大きい。しかしながら、悉皆的な調査が実施されていないため、位置が特定されていない、あるいは詳細が十分に把握されていない城館・城郭遺跡は依然として多く、適切な保護措置を講じるにあたり情報が不足している状況である。そのため、全体的かつ総体的な評価を行うには至っておらず、遺跡の公開活用を図る上でも県内の城館遺跡相互の比較検討は必要であり、本県にとって中近世城館遺跡の総合調査の実施は課題となっていた。

近年の山間部における開発の増加に加え、山城に対する興味関心の高まりや保存活用の要望の増加から、急務となった総合的な調査に取り組むこととなった。県内の中近世城館遺跡を対象に、遺跡の位置や範囲、時代、歴史的背景等の基本的情報を可能な限り把握し、成果の体系的な整理と評価を行うものである。また、遺跡の周知化と保存活用に向けた理解の促進をも目的としている。

2　調査の経過

福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査事業は、国庫補助を受けて平成24年度から５ヶ年の計画で実施している。平成25年２月に第１回福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会（以下指導委員会）を開催し、調査の方針と手法について指導を受けた。委員は第１表のとおりである。本詳細分布調査は、県内市町村を旧国に基づいて地域分けし、筑前地域、豊前地域、筑後地域の順に調査を進め、随時報告書をまとめることとなった。

第１表　福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会委員名簿（敬称略）

委員氏名	職名	備考
西谷　正	九州歴史資料館名誉館長 九州大学名誉教授	委員長、考古学
服部英雄	くまもと文学・歴史館長 九州大学名誉教授	副委員長、中世史
中井　均	滋賀県立大学教授	城郭研究

平成25年度は筑前地域の報告書刊行と豊前地域の調査を実施する予定となっていたが、筑前地域に所在する中近世城館遺跡の数は非常に多く、また、関連資料等も膨大な量にのぼるため、報告書を２分冊とし、調査事業を１年延長することとなった。指導委員会は２回開催し、調査および報告書作成作業の進捗状況の報告、併せて、旧筑前国の三日月山城館群、黒崎城跡、花尾城跡の現地視察と検討を行った。また、筑前地域の南半部にあたる旧御笠郡・夜須郡・上座郡・下座郡・穂波郡・

嘉麻郡の旧６郡の調査成果を「福岡県の中近世城館跡Ⅰ－筑前地域編１－」にまとめた。

平成 26 年度は筑前地域北半部の重点調査と報告書の作成、豊前地域の調査を実施した。５月に開催した第４回指導委員会では、旧筑前国立花山城跡の南側に位置する城ノ越山に点在する城ノ越城館群の現地視察と検討、報告書作成作業の進捗状況および豊前地域の調査状況の報告を行った。平成 27 年３月には第５回指導委員会を開催し、旧豊前国長野城跡周辺に展開する城館群を現地視察し、検討を行うとともに豊前地域の調査状況の報告を行い、指導、助言を得た。年度末には筑前地域北半部にあたる旧鞍手郡・遠賀郡・宗像郡・糟屋郡・席田郡・那珂郡・早良郡・怡土郡・志摩郡からなる旧９郡の調査成果をまとめた「福岡県の中近世城館跡Ⅱ－筑前地域編２－」を刊行した。

平成 27 年度は豊前地域の重点調査と報告書の作成、筑後地域の調査を実施した。５月に開催した第６回指導委員会では旧豊前国の北東部にあたる馬ヶ岳城跡と松山城跡の現地視察と検討を行い、豊前地域の調査状況を報告するとともに筑後地域の調査についての指導、助言を得た。平成 28 年３月 10 日に開催した第７回指導委員会では、旧豊前国南部にあたる神楽城跡、大平城跡、宇都宮氏館跡の現地視察、検討を行い、筑後地域の調査状況を報告し、指導、助言を得た。年度末には豊前地域にあたる旧企救郡・田川郡・京都郡・仲津郡・築城郡・上毛郡からなる旧６郡の調査成果をまとめた「福岡県の中近世城館跡Ⅲ－豊前地域編－」を刊行した。

平成 28 年度は筑後地域の重点調査と報告書の作成を実施した。６月に開催した第８回指導委員会では旧筑後国の北東部にあたる鷹取山城跡、発心城跡、毘沙門岳城跡、杉ノ城跡といった耳納山系の中世城館と、近世では久留米藩有馬氏の居城であった篠山城跡の現地視察と検討を行った。また、筑後地域の調査状況や最終巻となる当年度報告書に所収される既報告地域の追加調査や近世台場・遠見番所・烽火台跡の調査について報告するとともに、今後の調査についての指導、助言を得た。平成 29 年２月 27 日に開催した第９回指導委員会では、最終回となることもあり、県内の代表的な城館跡として旧豊前国長野城跡とその関連遺跡である椎山城跡の現地視察と検討を行った。また、筑後地域及び総括編となる報告書の確認をするとともに、福岡県全域を踏まえた中近世城館遺跡の今後の保存と活用についての検討によって総括を行った。

第８回指導委員会の様子
（毘沙門岳城現地視察）

第２表　福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会の経過（平成 28 年度）

	開催日時	会　場	審議内容等
第８回	平成 28 年６月２日	久留米市 坂本繁二郎生家	・耳納山系の中世城館・篠山城跡の現地視察 ・耳納山系の中世城館・篠山城跡の検討 ・筑後地域等の調査について ・今後の予定（報告書作成等）について
第９回	平成 29 年２月 27 日	北九州市埋蔵文化財センター	・長野城跡・椎山城跡の現地視察 ・長野城跡・椎山城跡の検討 ・筑後地域及び総括報告書について ・福岡県の中近世城館遺跡の保存と活用について

3　調査の組織

本詳細分布調査事業は、福岡県教育庁総務部文化財保護課と九州歴史資料館とで協力して取り組んでいる。

福岡県教育庁総務部文化財保護課（調整・調査・報告）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
総括					
教育長	杉光　誠	杉光　誠	城戸秀明	城戸秀明	城戸秀明
教育次長	荒巻俊彦	城戸秀明	西牟田龍治	西牟田龍治	西牟田龍治
総務部長	西牟田龍治	西牟田龍治	川添弘人	川添弘人	辰田一郎
文化財保護課長	伊崎俊秋	伊崎俊秋	赤司善彦	赤司善彦	赤司善彦
課長補佐	桂木俊樹	髙田政司	岩崎千鶴子	岩崎千鶴子	岩崎千鶴子
庶務					
管理係長	石橋伸二	石橋伸二	石橋伸二	伊藤幸子	伊藤幸子
事務主査	伊藤幸子	綾香博充	末吉大祐	末吉大祐	宮原朋子
	綾香博充	末吉大祐	宮原朋子	宮原朋子	青木久美
				青木久美	浦田宗一郎
主任主事	加藤教子	加藤教子	加藤教子		
調査・報告					
企画係長	吉田東明	吉田東明	吉田東明	吉田東明	吉田東明
技術主査	岸本　圭	今井涼子	今井涼子	宮地聡一郎	宮地聡一郎
	今井涼子		大庭孝夫		坂元雄紀
	宮地聡一郎				
主任技師		大庭孝夫	坂元雄紀	坂元雄紀	城門義廣
		坂元雄紀			

九州歴史資料館（調査・報告）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
総括					
館長	西谷　正	荒巻俊彦	杉光　誠	杉光　誠	杉光　誠
副館長	篠田隆行	篠田隆行	伊崎俊秋	伊崎俊秋	飛野博文
参事				飛野博文	
参事補佐	小池史哲				
庶務					
総務室長	圓城寺紀子	圓城寺紀子	塩塚孝憲	塩塚孝憲	塩塚孝憲
総務班長	長野良博	長野良博	山崎　彰	中村満喜子	中村満喜子
調査・報告					
学芸調査室長	小田和利	小田和利	小田和利	小田和利	小田和利

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
学芸普及班長 （平成 25 年度から学芸研究班）	松川博一	松川博一	松川博一	松川博一	松川博一
技術主査		岡寺　良	酒井芳司 岡寺　良	酒井芳司 岡寺　良	酒井芳司 岡寺　良
主任技師	岡寺　良 一瀬　智	一瀬　智			

調査協力（本書報告対象地域のみ（50 音順・敬称略））

＜公的機関等＞岫有馬記念館保存会、うきは市教育委員会、大川市教育委員会、大木町教育委員会、大牟田市教育委員会、大牟田市立三池カルタ・歴史資料館、小郡市教育委員会、九州大学附属図書館付設記録資料館、久留米市市民文化部文化財保護課、久留米市立中央図書館、篠山神社、親種寺、大刀洗町教育委員会、立花家史料館、筑後市教育委員会、広川町教育委員会、福岡県立伝習館高等学校、福岡県立図書館、みやま市教育委員会、柳川古文書館、柳川市教育委員会、柳川みやま土木組合、八女市新社会推進部文化振興課。

＜研究団体・個人＞片山安夫、木島孝之、佐々木四十臣、中村修身、北部九州中近世城郭研究会（代表：山崎龍雄）。

Ⅱ　調査の方法

1　調査の進め方と方法

前章でも述べたとおり、本県における中近世城館の調査研究成果の蓄積は著しく、既往の調査情報が比較的多くそろっているのが実情である。よって、既往情報の整理と蓄積を主眼に置き、以下のとおりの手順で調査を進めている。

＜手順１＞既存資料の把握

上記の状況を勘案し、対象地域における城館の全体概要を知るために、過去の調査資料等を把握するところから始めることとした。福岡県内における城館調査は、既に江戸時代の地誌類編纂にまでさかのぼることができるが、それらも含め、筑後地域については以下の８の文献に、城郭の一覧を早い段階において公表した『探訪日本の城』（1977 年・小学館発行。福岡県城郭一覧は西谷正が記載）を加えた９文献を「基本参考文献」とし、そのほか各自治体史や報告書等を参考にしながら、城館の情報を収集した。８の基本参考文献の概要は以下のとおりである。

①　『筑後将士軍談（筑後国史）』（矢野一貞著・1853 年）

筑後国は藩政時代、久留米藩と柳川藩に大きく二分されていたこともあって、筑後国全体をまとめた地誌類があまり多いとはいいがたい。そのような状況にあって、本書は国学者の久留米藩士・矢野一貞が嘉永６年（1853）に序文を記したもので、筑後国における合戦や官人・武将の伝記、城跡等を記したもので、久米邦武が『筑後国史』と副題を付けている。後の昭和２年（1927）に『校訂筑後国史　筑後将士軍談』（上・中・下巻）として筑後遺籍刊行会から版本が出され、世に広く知れ渡ることとなった。その後も同書は復刊が行われている。

本書の巻之 45・46（校訂本は中巻の後半部分）が「城館第宅部」として筑後全 10 郡内の城館 172 箇所を解説しており、近世期にここまで一括して城館の解説を掲載している地誌はない。また、本書以前に刊行されたもので、筑後全体の城館を網羅した『筑後地鑑』（西以三著・1683 年。同書は『筑後地誌叢書』（1929 年刊のち 1979 年に復刊）に所収されている）の他、『寛延記』や『南筑明覧』（1765 年・戸次求馬著。『筑後地誌叢書』所収）などの久留米・柳川各藩の地誌の多くをそのまま引用しており、本調査を行うに際しては、まずはこの『筑後将士軍談』を引用した上で、不足分について他の地誌を引用することとした。

②　『旧城跡等ノ取調』（福岡県社第 1956 号　大正５年 10 月２日施行）

福岡県庁には大正５年の公文書の中に「旧城跡取調」という一連の文書が残されている。これは同年９月 10 日付にて高知県庁から各府県にあてての照会として、「貴府縣下ニ於テ旧城址ノ現存セルモノ有之候ハバ乍御手数左記事項御回報相成候」として城名、城主名、位置、面積、現存建物の有無、所有者及び管理者、利用・維持・保存方法について回答を依頼している。福岡県ではこれを受けて県下の郡役所に照会をかけ、回答を得ている。城数自体はさほど多くはないものの、大正時代の城跡の認識を知る上でも非常に重要な資料である。

③　『研究旅行用　面白い種々な見方の福岡縣史、史蹟名勝口碑傳説所在地』（和田宗八・1936 年）

福岡師範学校教諭の和田宗八が著し、金文堂から出版された。序文に「一、小学校の先生曰く、この村はつまりません。貧乏村で（以下略）」のユニークな書き出しで始まるこの書籍は、郷土史を

教える福岡県内の小学校、中等学校の教員のために記されたもので、福岡県の歴史に始まり、人物、風習、口碑伝説、遺跡などを記す。特に史蹟遺物口碑伝説所在地と銘打った一覧は、市郡ごとに詳細な地名表が掲げられ、城館のほか、寺社や遺跡なども数多く掲載されている。和田は本書を記すにあたって、地誌類はもとより数多くの古文献に当たっているようで、本文献が初出の城館も少なからず存在する。また、当文献は後の福岡県教育委員会作成の一覧（文献⑤）を作成する際にも、参考とされ、その後の城館一覧に掲載されるに至ったものもある。

④ 『日本城郭全集』14 佐賀・長崎・福岡（人物往来社（鳥羽正雄他編・1967 年））

大類伸が監修し、全国都道府県ごとに古代から中近世城館の全体概要を示したという点では、戦後初めてとなるシリーズ本で、鳥羽正雄や小室栄一など当時の学界をリードしていた研究者が編集を行った。福岡県は蒲池星が編集を担当、小和田哲男や廣崎篤夫などが執筆した。近世からの地誌のほか、郡誌などにしか掲載のない城館なども採り上げられ、昭和 40 年代における城館の把握状況を知ることができる。

⑤ 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XXIX 付録　福岡県中世山城跡（福岡県教育委員会（副島邦弘・近沢康治編）・1979 年）

九州縦貫自動車道建設に伴い、70 年代には福岡県教育委員会では路線内の記録保存調査を大規模に行うこととなったが、中世城館跡も幾つかが調査対象となった。その一つ、鞍手町音丸城跡の調査報告に際し、県内の中世山城跡の一覧表を作成報告したものが本書である。基本的には城名、所在地、立地、規模、形式、築城者、時代、残存遺構、文献、備考の項目を列記したものである。例言の５に「本書は、中世山城についての資料を採集した資料編で、今後の研究のためのたたき台としてほしい。」とあるように、その後の福岡県内における城館研究の基礎資料となった。

⑥ 『日本城郭大系』第 18 巻福岡・熊本・鹿児島（新人物往来社（磯村幸男編・1979 年）

全国の古代から近世に至るまでの城館遺跡を対象としたシリーズで、都道府県ごとに地元の研究者が執筆したこともあり、70 年代の城館遺跡に関する情報が網羅されたものとなっている。福岡県は県職員で古代史が専門の磯村幸男が編集を担当し、中世については当時、文献⑤を手がけていた副島邦弘と近沢康治が、近世は三池賢一という県の関係者が手がけている。中世に関しては文献⑤と重複する部分が殆どであるが、一般への普及という意味に於いては本書の果たした役割は大きい。

⑦ 『福岡県の城』（廣崎篤夫・1995 年）/『福岡県古城探訪』（廣崎篤夫・1997 年）

中学校の歴史教員の傍ら、全国城郭研究者セミナーなどの全国学会でも発表しつつ、60 年代から 90 年代の約 40 年をかけて県内 1,000 箇所の内の約 700 箇所を踏査し、内約 300 城を詳細に報告した労作である。特に、これまで城館跡の報告としては図面等が完備されたものがなかったが、本書では非常に多くの縄張り図を完備しており、本書が刊行された折には全国の城館研究者の注目度が高かったことは、当時の研究雑誌に書評が載せられたことからも窺い知ることができよう。また、巻末には詳細な城館一覧表が載せられていることも本書の学術的価値を高めている。また、『福岡県の城』刊行の２年後には普及・追補版として『福岡県古城探訪』が刊行されている。

⑧ 『福岡県の城郭』（福岡県の城刊行会・2009 年）

平成 11 年、福岡県に「北部九州中近世城郭研究会」が発足した。同会は、これまで北部九州の城館研究を推進してきた一人、中村修身が中心となって主宰するもので、年１回の研究集会の他、年数回の現地見学会、年２回の機関紙の発行が主な活動内容となっている。自治体、大学、その他

城郭研究者など、多様なメンバーによって構成された団体であり、この研究会が母体となって、中村と同会会員の村上勝郎が中心となってまとめたのが本書である。本書には、県内222箇所の中世城館の説明と挿図が載せられている。会員をはじめとする計38人という大人数が執筆に加わったこともあり、2009年段階での県内城館の研究状況をそっくり反映したものとなっている。巻末には城館一覧も掲載されている。

また、筑後地域は藩領（久留米藩（御原郡・御井郡・三潴郡（一部）・山本郡・竹野郡・生葉郡・上妻郡（一部）・下妻郡（一部））・柳川藩（上妻郡（一部）・下妻郡（一部）・山門郡・三池郡））によって参考とする既往文献が異なるため、ここで各郡における既往文献の状況だけ簡単に触れておくこととしたい。

㋐久留米藩　久留米藩領において最も詳細に記した近世地誌が、『旧記寛文古城址書上』と『寛延記』（『寛延記』は1976年に久留米郷土研究会により翻刻版が出版されている）であろう。これらは久留米藩が領内の寺社・史跡等を把握するため、各村の庄屋に書上を提出させて編纂されたもので、大きなものでは寛文年間と寛延年間に行われている。さらに、『筑後志』などもある。また、明治時代以降に作成されたものとしては、各郡単位において異なるため、以下に分けて記す

a. **御原郡・御井郡・山本郡**　この3郡は近代以降、「三井郡」として一括される。これらの地域の城館が記載されたものとしては、昭和33年（1958）に三井郡社会科同好会から発刊された『郷土資料集』がある。

b. **三潴郡**　当郡においては、戦前に編纂された『福岡縣三潴郡誌』が存在するが、本報告書作成において参照することができなかった。そのため、それを多数引用し、なおかつ追加記載が数多く記載されている『新考三潴郡誌』（1932年）ほか各自治体誌を参照した。

c. **竹野郡・生葉郡（うきは市部分）**　この両郡は生葉郡の星野村を除き、近代以降、「浮羽郡」として一括される。『浮羽郡誌』などの編纂誌もあるが、基本的にはすべて古賀基司の調査成果に拠っている。吉井町出身の古賀基司（元は基二）は戦前より浮羽郡内の中世城館の調査を熱心に行っており、『郷土研究筑後』などに幾度か調査報告を掲載していた。それらをまとめたのが、『浮羽古文化財保存会誌　宇枳波』第二号に掲載された「浮羽郡古城址とその歴史」である。そこには浮羽郡内に所在する古城について一つ

第1図　「浮羽郡古城址とその歴史」に掲載された福岡縣浮羽郡内古城分布図

一つ文献や現地踏査に基づいた報告が、分布図（第１図）と共に掲載されており、以後の同地域の城郭研究の基本文献となっているものである。本調査においても、浮羽郡内の城館現地調査は古賀基司の調査報告を丹念に読み込んだ上で、現地調査を行っている。いくつか古賀基司が伝承などの無い場所を城館としたものについては現地踏査の結果、誤認であるものもあった。しかしながら、古賀はそれらの所在を文章の形で丁寧に説明していたために、それが現地のどこを指しているかを把握できたため、再検証することが可能であった。

d. 生葉郡（八女市星野村部分）・上妻郡・下妻郡　これらの地域は近代以降、「八女郡」として一括されている。同地域で参考としたのが『稿本八女郡史』（1917 年・福岡縣八女郡役所）である。同書内の「城館誌」に多くの城館の記載がみられる。

㋑柳川藩　柳川藩内においては、柳川藩領内全体を扱ったものとして、『旧柳川藩志』（1914 年著・1962 発刊（1980 年復刻）・渡辺村男著）があり、同書中巻の「第 16 章　名所旧跡」には柳川藩領内の古城址の記載がなされている。また同書中巻に「附録」として「邪馬台国探見記」が掲載されており、古代の邪馬台国を検証するため筑後南部の史跡を解説しており、その中でしか記載されない中世城館もあり、貴重な記述となっている。また、郡ごとの文献としては、八女郡は先に挙げた『稿本八女郡史』、山門郡の『山門郡誌』（1926 年・山門郡教育会編）や三池郡の『三池郡誌』（1926 年・三池郡教育会編）を参考にした。

＜手順２＞既存情報の整理

上記の資料をはじめとする把握された既存情報を元に、城館一覧表を作成するとともに、位置が判明しているものについては国土地理院発行 1/25,000 地形図により位置図を作成した。それらの内容や詳細についてはⅢ・Ⅳを参照願いたい。

それらの情報をこの段階において、該当市町村教育委員会および指導委員会委員に情報照会を行ったうえで、追補訂正を行った。

＜手順３＞一次調査

上記、既存情報の整理を行った情報をもとに、一次調査として以下の調査を行った。

①　現地遺構の確認調査

位置が把握できたものについて、現地にて遺構の有無や状況について確認した。既に縄張り図等のデータがあるものについては、それらの図面と現地の状況との照合も行っている。

②　文書調査

既に翻刻されている古文書について、対象地区の城館にかかわる記載を抽出する作業を行った。詳細についてはⅥを参照願いたい。

③　絵図調査

古城跡を描いた古絵図資料として、文化～天保年間に秋月藩士の大倉種周・土井正就によって描かれた『古戦古城之図』（国立公文書館蔵）や、筑後地域編に関連する所では、篠山神社および久留米市所蔵の久留米城・福島城関係絵図、柳川古文書館保管の柳川城等絵図、柳川みやま土木組合所蔵の山門郡各村の字図の調査も行い、現地調査および報告書刊行のためのデータとした。

④　地名調査

城館にかかわる地名を抽出する作業で、「明治十五年字小名調」（『福岡縣史資料第七輯』1937 年福岡県編集・発行）を元に、城館関連地名について抽出を行った。また、上記文献には記載さ

れていないが、現在残されている小字名なども城館に直接関わると思われるものについても抽出を行った。詳細についてはⅦを参照願いたい。

＜手順４＞二次調査（追加調査）

一次調査において、得られた情報をさらに補完するため、追加調査として二次調査を行った。調査内容については以下のとおりである。

①　現地調査

一次調査において現地を確認した結果、城館遺構が確認され、なおかつ既往の図面がないものについて、縄張り調査を行い、図面を作成した。また、平地に立地し、現地形からでは城館の範囲の特定が困難なものについては市町村が所蔵する地籍図を利用して城館の範囲を特定・推定した。作業の工程上、現地調査については一次調査と二次調査を連続して行わざるを得ない状況であり、いくつかについては事実上、一連の調査として行ったものもある。

なお、図面の作成方法･表記･遺構名称等については、『発掘調査のてびき　各種遺跡編』（2014年・文化庁編）に準じた。

②　地名調査

一次調査において確認された城館関連地名について、特定の城館と関連性が窺われるものについては、現在の場所との照合を行った。照合方法は、現在の小字との照合によるものであり、市町村教育委員会および地元博物館等に照会することで行った。そのため、既に今となっては所在不明となってしまったものも多かった。

最終的に、調査対象については「中近世城館」･「城館関連遺跡」･「城館等伝承地」の三分類を行い、それぞれ報告することとした。それらの分類基準は以下のとおりである。

a　中近世城館

中近世城館一般をさす。位置や来歴が明確なもののみならず､それらが不明の場合であっても、基本文献に城として記載されているものについてはここに含めた。

なお、報告においては中世城館と近世城館は区別し、中世から近世まで連続しているものについては中世城館に含め、近世以降に築城されたことが明らかなものについて近世城館とした。

b　城館関連遺跡

城館等の伝承や来歴はないが、発掘調査において確認された中世（概ね 12 ～ 16 世紀代）の溝や堀状遺構で囲まれた集落、屋敷地などの遺跡を指す。中世の屋敷地と思われる遺跡であっても、溝や堀で囲まれる、防御されたものではないものについては除外した。

c　城館等伝承地

城館伝承の内、主として特定の武将などの居館として伝承のあるもので、現在、場所や城館遺構が全く不明となっているもの、城館以外のもの（岩など）に城館伝承が付されているものを指す。確実に遺構等が見られるものについては「中近世城館」として扱っている。

なお、筑後地域にて散見される環濠集落については、確実に中世まで遡る伝承・記載等がないものについては除外している。

本書では､上記の調査を経た福岡県内の筑後地域（旧筑後国全域）について報告を行うものである。

Ⅲ　対象地域城館一覧

本章では、本書における対象地域内すべての城館および関連遺跡についての一覧を示す。一覧表の各項目の詳細は以下のとおりである。

＜一覧表の項目解説＞

「地域」…県内の旧国名（筑前・筑後・豊前）の別を示す。

「No.」…遺跡の分類ごとに通しで番号を付した。番号の振り方は以下のとおり。

- 「中世城館」…１・２・３･･･
- 「近世城館」…Ｋ１・Ｋ２・Ｋ３･･･
- 「城館等伝承地」…Ｄ１・Ｄ２・Ｄ３･･･
- 「城館関連遺跡」…Ｒ１・Ｒ２・Ｒ３･･･
- 「所在不明」…Ｆ１・Ｆ２・Ｆ３･･･

「名称・別称」……城館の名称が複数あるものについては、なるべく基本参考文献の初出名を名称として採用し、他の名称については別称とした。ただし、今日一般的に通用した名称が上記基準でない場合は、一般名称の方を採用した。
よみがなについては、なるべく確実に把握することに努めたが、読み方を確定できなかったものについては（）を付して記している。

「旧郡名」……旧郡名の別を指す。

「所在地」……大字までの表記とした。

「関連地名」……地名調査の結果、城館に直接関連すると思われる地名を記した。

「史料」……文書調査の結果、一次史料に記載のあるものには、「一次」欄に、参考史料に記載のあるものには「参考」欄に○を付した。

「地誌類・基本参考文献」…本一覧表を作成するにあたって基本参考文献とした文献に記載のあるものにはそれぞれ○を付し、「その他文献」欄にはそれ以外の文献番号（番号は参考文献一覧（32 ～ 34 ページに記載）の番号に同じ）を付した。番号がゴチックとなっているものについては、縄張り図または測量図が掲載されている文献を指す。文献の略号内容は以下のとおり。

- 「軍談」…『筑後将士軍談』（矢野一貞著・1853年）
- 「旧城」…『旧城跡等ノ取調』（福岡県社第1956号　大正５年（1915）10月２日施行）
- 「種々」…『研究旅行用 面白い種々な見方の福岡縣史、史蹟名勝口碑傳説所在地』（金文堂（和田宗八・1936年））
- 「全集」…『日本城郭全集』14 佐賀・長崎・福岡（人物往来社（鳥羽正雄他編・1967年））
- 「探訪」…『探訪日本の城』10西海道（小学館（西谷正ほか・1977年））
- 「教委」…『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XXIX 付録　福岡県中世山城跡（福岡県教育委員会（副島邦弘・近沢康治編）・1979年）
- 「大系」…『日本城郭大系』第18巻福岡・熊本・鹿児島（新人物往来社（磯村幸男編・1979年）
- 「廣崎」…『福岡県の城』（廣崎篤夫・1995年）/『福岡県古城探訪』（廣崎篤夫・1997年）
- 「城郭」…『福岡県の城郭』（福岡県の城刊行会・2009年）

「種類」…以下の基準により分類して表記した。

・「山城」（比高約50m以上の丘陵・山稜上に立地する城館）

・「丘城」（比高約50m未満の丘陵上に立地する城館）

・「平地城館」（平地に立地する城館）

「所在」…城館の所在や遺構の状況や範囲は判別できるか否か等で以下のとおり分類・表記した。

◎…所在・残存遺構・範囲が明確に把握できるもの。

●…所在は把握できるが、残存遺構や範囲は把握できない（もしくは未踏査）もの。

○…小字の範囲程度の所在のみが把握できるもの

△…大字の範囲程度の所在のみが把握できるもの

なお、旧郡の範囲までしか把握できないものについては「所在不明」とした。

「図幅名」……Ⅳに掲載した位置図の図幅名を示した。図幅名は国土地理院のものを採用し、地図の西側と東側とで、それぞれ（西）・（東）を付した。

「調査データ」…今回の調査事業も含め、「縄張り調査」・「測量調査」・「発掘調査」がなされているものについて、それぞれ○を付した。

「包蔵地番号」…周知の包蔵地となっているものについては、包蔵地番号を県および市町村の番号をそれぞれ付した。それぞれの包蔵地を示した分布地図については、参考文献一覧を参照願いたい。

「概要」……Ⅴの個別報告に記載のあるものについては、記載ページを付し、記載のないものについては、城館の概要について記した。

地域	No.	名称	よみがな	別称	旧郡名	所在地	関連地名	史料		補足			基本参考文献						種類	所在
								一次	参考	軍談	種々	旧城	全集	探訪	教委	大系	南紀	城郭	その他		
筑後	1	乙隈城	おとぐま	鎮西探題館・乙隈館	御原郡	小郡市乙隈	北小路・南小路・大門			○	○	○		○	○	○	○	○		平地城館	●
筑後	**2**	**山隈城**	**やまぐま**	**花立山城・干潟城**	**御原郡/筑前国夜須郡**	**小郡市山隈・朝倉郡筑前町四三嶋・山隈**	**城山**	**○**	**○**	**○**	**○**	**○**		**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**10～12, 45,48,128**	**山城**	**◎**
筑後	3	吹上城	ふきあげ		御原郡	小郡市吹上				○	○	○		○	○	○	○	○		平城	●
筑後	4	大板井城	おおいたい	板井城	御原郡	小郡市大板井	屋敷・門出・大手町		○	○				○	○	○	○	○	135	平地城館か	○
筑後	5	甲条城	こうちょう		御原郡	三井郡大刀洗町甲条					○									平地城館か	○
筑後	6	下高橋城	しもたかはし		御原郡	三井郡大刀洗町下高橋				○	○			○	○	○	○	○	62,63	平地城館	●
筑後	7	上高橋城	かみたかはし		御原郡	三井郡大刀洗町上高橋			○	○	○			○	○	○	○	○		平地城館か	○
筑後	**8**	**三原城**	**みはら**	**本郷館**	**御原郡**	**三井郡大刀洗町本郷**			**○**	**○**				**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**29,64,115**	**平地城館**	**◎**
筑後	**9**	**本郷城**	**ほんごう**		**御原郡**	**三井郡大刀洗町本郷**				**○**						**○**	**○**	**○**		**平地城館か**	**△**
筑後	**10**	**西鯵坂城**	**にしあじさか**	**西鯵坂館・阿地坂城**	**御井郡**	**小郡市下西鯵坂**	**城・番上田・城ノ内・東馬場郷・西馬場郷・大手**		**○**	**○**	**○**	**○**		**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**123,135**	**平地城館**	**◎**
筑後	**11**	**古賀城**	**こが**	**八町嶋城**	**御井郡**	**久留米市宮ノ陣町八丁島**			**○**	**○**	**○**	**○**		**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**135**	**平地城館か**	**△**
筑後	**12**	**稲員館**	**いなかず**	**稲員城**	**御井郡**	**久留米市北野町稲数**				**○**	**○**					**○**	**○**	**○**		**平地城館か**	**○**
筑後	**13**	**神代館**	**くましろ**		**御井郡**	**久留米市山川町神代**				**○**	**○**			**○**		**○**	**○**	**○**		**平地城館**	**◎**
筑後	**14**	**鶴ヶ城**	**つるが**	**舞鶴城**	**御井郡**	**久留米市山川町**	**鶴ヶ城**			**○**					**○**	**○**	**○**	**○**		**山城**	**◎**
筑後	**15**	**毘沙門岳城**	**びしゃもんだけ**	**別所城**	**御井郡**	**久留米市御井町**		**○**		**○**					**○**	**○**	**○**	**○**	**37,126, 133**	**山城**	**◎**
筑後	**16**	**杉ノ城**	**すぎの**	**住厩城**	**御井郡**	**久留米市御井町**				**○**					**○**	**○**	**○**	**○**	**37,124, 133**	**山城**	**◎**
筑後	17	古寶殿城	こほうでん		御井郡	久留米市山川町				○				○	○	○	○	○		山城か	●
筑後	**18**	**吉見岳城**	**よしみだけ**	**芳水嶽城**	**御井郡**	**久留米市御井町・山川町**			**○**	**○**	**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**37,133**	**山城**	**◎**
筑後	19	高瀬城	たかせ		御井郡	久留米市御井町				○				○	○	○	○	○		山城	△
筑後	20	明星岳城	あかぼしだけ		御井郡	久留米市高良内町				○					○	○	○	○		山城	●
筑後	21	東光寺城	とうこうじ	算城・長増山城	御井郡	久留米市山川町		○			○	○		○	○	○	○	○	37,66	丘城か	●
筑後	22	磐井城	いわい	岩井城	御井郡	久留米市御井町・山川町				○	○			○	○	○	○	○	37,50	丘城か	●
筑後	23	若松城	わかまつ		御井郡	久留米市宮ノ陣町若松					○									不明	△
筑後	24	草場館	くさば	草場城	御井郡	久留米市宮ノ陣町大杜	内屋敷			○	○					○	○	○		平地城館か	○
筑後	25	五郎丸館	ごろうまる		御井郡	久留米市宮ノ陣町五郎丸	蟠屋敷			○	○			○		○	○	○		平地城館か	○
筑後	26	**弓削城**	**ゆげ**		**御井郡/山本郡**	**久留米市山本町豊田・山川町**	**城・城ノ谷・城ノ前**		**○**										**135**	**不明**	**○**

国幡名	調査データ		包蔵地番号			概要
	調査関係	開発関係	県	市町村		
二日市(東)			200002	04073		『軍談』には、「乙隈村城跡」として、「平城也。縦二十間、横十七間、周り上手高一間半」とし、鎮西探題・北条光時の居城ではないかとする。また同書には、「乙隈村館跡」もあり、館規模とない。三方に土居を設け、さらにその東十間の場所にも、四重の堀が巡らこさや、西側に大門・間屋という地名が残ること、探題北条氏の館、あるいは「土入ハ龍造寺(注)城ト云伝フ」と記す。現在はおよその伝承地も分からないていなが、50～60年ほど前までは城の跡と考えられる濃淡が近辺に残されていたとされ小郡市教育委員会の聞き取り調査による)。小字「北ヶ路」「南ヶ路」との関の一角を「大門」と呼ぶことから、そのあたりに城があったものと考えられる。
二日市(東)	○		200032・530001	05023		本文68頁を参照。
島橋(東)			200116	07017		『軍談』には、「吠上村城跡」として、「平城也。縦二十四間、横十六間、三方ニ陣ヲ引」し、南側の堀は水堀、東側と北側の堀は空堀であるとし、高橋鑑直が城主であるとする時代は不詳とする。「ウーキンド(大屋敷か)」「ウーキンド(大城戸か)」「村間」などの地名が残る近辺に城地が伝わり、東西方向に延びる土塁状の高まりも残されているも、しかしながら、城の明確な範囲は現状では不明と言わざるを得ない。
島橋(東)			200271	10041		『軍談』には「大板井村城跡」として、『寛延記』を引用して城主不詳とするが、巻末に逝記として、大板井村の伊藤善兵衛宅を「城」といい、宅地の南を「門出」と呼び、周囲には堀が巡らこしているとする。また、『筑紫氏所領城数覚書』(福岡市博物館蔵)には筑紫氏の持ち城のひとつとして、「板井之城」が出てくるが、おそらく大板井にある城の事を指していているものとみられる。現在、「門出」とその北側に「屋敷」という小字名があり、その近辺が城地と考えられるが、現地に明確な痕跡はなく、詳細は不明と言わざるを得ない。なお、福岡県の分布地図(文献138)には「大板井村館跡」としているが、「城跡」の関違いと思われる。
島橋(東)			650021			『種々』は「初出とし、「甲橋城址(薬瀬氏)」とある。県の分布地図(文献138)には甲条神社の周辺にあるとしているが、その根拠が不明なため、詳細はまだ不明と言わざるを得ない。
島橋(東)		○	650026	0015		『軍談』には「下高橋村城跡」として「平城也。縦五十三間、横二十五間」とし、その東側と西側に堀があり、二ノ丸の存在も記載する。高橋氏代々の居城で、鑑種の代で筑前岩屋城へ移ったと記している。現在、下高橋の鷹門神社には、「高橋城」と呼ばれる石塔があり、『軍談』の言う「高橋氏神」である可能性が高い。同書には神は「下高橋城跡にあるとされることから、鷹門神社が城地であると考えられる。神社近辺では、発掘調査もなされ、中世の遺なども検出されているが、全体的な構造を解明するまでには至っておらず、城に直接かかわるものかの不明さは言わざるを得ない。なお、『種々』「下高橋の項にあるも「下高松城址」は「下高橋城址」の誤りであろう。
島橋(東)			650027			『軍談』には「上高橋村城跡」として「平城也。縦四十九間、横四十間、西ニ長三十六間、横一間ノ堀アリ、三方ハ叢ナリ」とし、高橋国書頭武重が居城したとする。『寛延記』には「東立」という藤所にあったとし、田になっているとする。同書には古代に高橋因書頭は天正16年(1588)に筑前岩屋城にて討死したとしている。また、『筑紫氏所領城数覚書』(福岡市博物館蔵)には筑紫氏の持ち城の一つ「高橋ノ城 切取ル」として手示蔵を城主とする話、上高橋城・下高橋城のどちらかのは不明である。なお、上高橋城とは、高橋の老松神社付近に推定されているが、明確な痕跡などはなく詳細は不明と言わざるを得ない。
島橋(東)	○	○	650023			本文69頁を参照。
島橋(東)						『寛延記』には「本郷町西風地地之中城主有之候由申伝候。城跡に大屋二つ有之候。年号時代相知不申候」とあり、本郷町の西側に簡地跡という城主がいた城があったことがわかる。また『軍談』には「本郷村城跡」として「平城也。縦二十五間、横二十四間、南ニ長二十間、廣八間ノ堀アリ」とし、三原左衛門重種が居城したとあり、『寛延記』の簡地跡の記載を記す。現在その場所は全く分からないため、不明と言わざるを得ない。
島橋(西)	○		200280	15004		本文70頁を参照。
島橋(東)						『軍談』には「古賀村城跡」として「平城也。縦五十間、横三十一間」とし、二ノ丸や、南北に堀の存在を記す。また、筑紫上野守が地域し、家臣の岩橋勝が守備したとし、天正14年(1586)7月に蒲池勢に攻められたため、城を捨ったとある。『寛延記』も、城主を岩橋林家とする他は以同様の記載であるし、『筑紫氏所領城数覚書』(福岡市博物館蔵)には筑紫氏の持ち城の一つ「八町ノ城城」として城主は岩橋林加とと記されている。現在の宮/神町八丁島の古賀に位置するとみられるが、詳細な場所は不明である。また『種々』には「三井郡三國村の力武(現在の小郡市力武)の項に「古賀城址(筑紫氏)」と記されるが、当城のことを指していると思われ、所在も誤認しているとされる。
島橋(東)			660016	38		『軍談』には「福員村都城」として延暦21年(802)に福員保兵が福員村に都を構え、正応3年(1290)に右京大夫良泰が上妻郡古賀村に移ったとする。『種々』には三井郡大城村稲敷の項目に「福員都址(福員氏)」とある。県教委あるい は北野町教育委員会発行の分布地図には、北野町稲敷所在とし、おとその場所が示されているが、あくまでも推定地であり、詳細は不明と言わざるを得ない。
久留米(東/西)			030150			本文70頁を参照。
久留米(東)	○		030335			本文71頁を参照。
久留米(東)	○		030416			本文73頁を参照。
久留米(東)	○		030725			本文74頁を参照。
久留米(東)			030334			『軍談』には「古賀殿城跡」として「寛延記」を引き、時代は不明で、上古の社の跡であるとする。城跡と伝えられる現地には、人工的な広い平坦面が残されているが、寺社関連の遺成面であり、明確な城郭遺構は見られないため、詳細は不明と言わざるを得ない。
久留米(東/西)	○	○	030418 030419 030420			本文76頁を参照。
久留米(東)						『軍談』には「高瀬氏城跡」として「高良山ニアリ、文明/頃ヨリ大年間迄、高瀬氏是ニ拠ル、今其所ヲ知ス」とあり、高良山内にあることが想定されるものの、『軍談』にあるとおり、所在は不明である。
久留米(東)			030931			『軍談』には「明星嶽城跡」として、正平年間に菊池氏が征西将軍を奉じて陣を置いたことなどが記され、城などの存在が記載される。しかしながら、明星山山頂には、平安時代の五々士師器が散布するものの、曲輪、堀などの明確な城郭遺構は存在しておらず、詳細は不明と言わざるを得ない。
久留米(西)			030295			『寛延記』には「一古城跡　一ヶ処　東光寺　此城主の儘不相知」とあるが、『軍談』には「東光寺城跡」として天正年間には高良山座主良覚・大祝保常がこれを守備したとある。また、『高良山縁記』(文献66に該当箇所所収)に「東光寺城跡　照魔所の処、坐主の他なし云ふ」とあり、現在の山川招魂神社付近に城地が想定されるが明確な城郭遺構は確認されていない。なお、近隣では茶臼山・東光寺遺跡として発掘調査がなされており、中世の館跡と思われる遺構が検出されており(筑後88)、関連が強まるものの、天正年間の記載とは無関係のようである。
久留米(西)		○	030340			『軍談』には「磐井城跡」とあり、「高良山大祝第宅/跡ニアリ」とあり、大祝屈曲の西側を九州自動車道建設に伴い「岩井城」として調査を行ったが、関連する遺構は確認されていない。文献37には、調査地の東にある大原受付近に城地が求められるとするも、明確な城郭遺構は確認されていない。『種々』の三井郡御井町高良山の項には「磐井居館址」の名が挙げられている他、古代の豪族、筑紫国造磐井の城であるとや、大祝保常の出城であるとしている(典拠不明)。
島橋(西)/久留米(西)						『種々』は「種一の出典とし、三井郡宮陣村若松の項に、「若松城址」とのみ記載する。現在の宮/神町若松に所在するものと思われるが、これ以上の情報がなく、また若松地内においても明確な城郭遺構は確認されておらず、詳細は不明と言わざるを得ない。
久留米(西)						『軍談』には「草場村城跡」として、「調遠寺ノ北ニアリ御可賀清居館/跡也」と記す。現在の調遠寺の北東側にあったものと考えられるが、城などの明確な城郭遺構は確認できず、詳細は不明と言わざるを得ない。
久留米(西)			030012			『軍談』には「五筋丸村城跡」として「村中舊林/内ニアリ、近藤氏代々/館跡也」とある。県の分布地図(文献138)に西鉄五郎丸駅南東側に位置を示しているが、明確な痕跡は不明であり、明確な城郭遺構も残されないため、詳細は不明と言わざるを得ない。
久留米(東)						『筑紫氏所領城数覚書』(福岡市博物館蔵)には筑紫氏の持ち城の一つ「弓削城」として弓削左衛門を城主とする。文献135では、久留米市山本町に弓削の地名がみられて、山川町とは本町豊田との境界付近に「鼎の城」や「城の鼎」を想定する。付近には「城」「城ノ谷」「城ノ前」などの地名があり、おとその城地が推定されるものの、明確な城郭遺構は確認されておらず、詳細は不明と言わざるを得ない。

地域	No.	名称	よみがな	別称	旧郡名	所在地	関連地名	史料		地誌			基本参考文献							種類	所在
								一次	参考	軍談	機々	旧城	企画	陣訪	教委	大系	関崎	城郭	その他		
筑後	27	大石館	おおいし		三潴郡	久留米市大石町				○			○			○	○	○		平地城館か	●
筑後	28	白口中村館	しらぐちなかむら	白口館・中村館	三潴郡	久留米市荒木町白口	黒門・馬場・蔵跡			○	○			○		○	○	○	20	平地城館か	○
筑後	29	荒木館	あらき	荒木近藤氏館	三潴郡	久留米市荒木町荒木	館		○	○	○			○		○	○	○	20	平地城館か	○
筑後	30	大隈城	おおくま		三潴郡	久留米市梅満町				○			○		○	○	○	○		平地城館か	●
筑後	**31**	**海津城**	**かいづ**	**安武古町城・古町城**	**三潴郡**	**久留米市安武町大島**			**○**	**○**	**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**20,37,72**	**平地城館**	**◎**
筑後	32	燕津館	おどろつ		三潴郡	久留米市宮ノ陣町燕津				○				○		○	○	○	20	平地城館か	●
筑後	33	隈城	くま		三潴郡	久留米市大善寺町夜明													136	平地城館か	○
筑後	34	高三潴館	たかみづま	高三潴式部少輔館	三潴郡	久留米市三潴町高三潴				○	○					○	○	○	20,31	平地城館か	●
筑後	35	横溝氏館	よこみぞし		三潴郡	久留米市三潴町高三潴				○	○								31,112	平地城館か	●
筑後	**36**	**田川館**	**たがわ**	**田川城**	**三潴郡**	**久留米市三潴町田川**				**○**	**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**20,31**	**平地城館**	**●**
筑後	**37**	**犬塚城**	**いぬづか**		**三潴郡**	**久留米市三潴町玉満**	**陣堀**		**○**		**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**20,31,112**	**平地城館**	**◎**
筑後	38	下田館	しもだ		三潴郡	久留米市城島町下田				○	○						○		20,41	平地城館か	△
筑後	39	下田城	しもだ		三潴郡	久留米市城島町下田				○	○			○	○	○	○	○	20,41,46	平地城館か	△
筑後	**40**	**西江上城**	**にしえがみ**	**江上城**	**三潴郡**	**久留米市城島町江上本**	**館**	**○**		**○**	**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**20,41**	**平地城館か**	**○**
筑後	**41**	**東江上城**	**ひがしえがみ**	**江上城・館古賀城**	**三潴郡**	**久留米市城島町江上**	**館ノ前・館古賀・東三ノ丸・西三ノ丸・館屋敷**	**○**		**○**	**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**20,41**	**平地城館か**	**●**
筑後	**42**	**下青木城**	**しもあおき**		**三潴郡**	**久留米市城島町下青木**													**46**	**平地城館か**	**△**
筑後	**43**	**南清松館**	**みなみきよまつ**		**三潴郡**	**久留米市三潴町清松**			**○**										**31**	**平地城館か**	**●**
筑後	44	生津城	なまづ		三潴郡	久留米市三潴町生津				○	○			○	○	○	○	○	20,31	平地城館	◎
筑後	45	**生津館**	**なまづ**		三潴郡	久留米市三潴町生津か								○			○	○	20,31	**平地城館か**	△
筑後	46	西牟田本村館	にしむたほんむら	本村館	三潴郡	久留米市三潴町西牟田				○	○				○	○	○	○	20,31	平地城館か	○
筑後	47	西古賀館	にしこが		三潴郡	久留米市三潴町西牟田				○				○		○	○	○	**31**	平地城館か	●
筑後	48	西牟田館	にしむた		三潴郡	筑後市西牟田	城崎		○	○				○		○	○		20,31	平地城館か	●
筑後	49	西牟田城	にしむた		三潴郡	筑後市西牟田	館	○	○					○	○	○	○	○	**20**	平地城館か	●
筑後	50	流館	ながれ		三潴郡	筑後市西牟田	本城			○				○			○	○		平地城館か	○
筑後	51	福間館	ふくま		三潴郡	三潴郡大木町福土				○				○		○	○	○	20,113	平地城館か	○
筑後	52	草野別館	くさの	福間別館	三潴郡	三潴郡大木町福土か				○				○			○			平地城館か	△
筑後	53	蛭池館	ひろいけ		三潴郡	三潴郡大木町蛭池				○	○			○		○	○	○	20,110,113	平地城館か	○

図幅名	調査データ 現地調査	調査図	発掘図	包蔵地番号 県	市町村	概要
久留米（西）						「『軍誌』は「村中ニアリ、今陣ノ内トシ、伊勢ノ東大越前守ノ舘也」とし、現在の大有神社が城地であるとする。この記載から舘には特定できるが、明確な舘遺構はみられず、詳細は不明と言おざるを得ない。
久留米（西）				030797		「軍誌」には「白口平村舘跡」として「川ノ南ニアリ、一本松馬場ノ舘跡ト云、蘆丸二至ル、三方ニ堀アリ、北ニ黒門ト号スル地アリ」とし、馬場、蘆跡などの地名が残るとする。県の分布地図（文献138）などには城地が推定されているが、明確な痕跡が不明であると共に、明確な城館遺構は見られないため、詳細は未不明と言おざるを得ない。
久留米（西）				030961		「軍誌」には「荒木村舘跡」として「上荒木ノ村中ニアリ、其地ヲ舘ト云」とし、近藤義雄氏の居館であるとする。県の分布地図（文献138）には「村中」の場所に舘地が推定されており、明確な城館遺構は確認されておらず、詳細も未不明と言おざるを得ない。また、船推定地の悪見島本舘を挙げて実舘には、元亀3年(1572)頃のビゼオ人碌とゃの石塔（弘風地蔵寄贈030985）があり、近藤義雄氏の墓とされている。
久留米 西部（東）				030227		「軍誌」には「大隈村舘跡」として、「村中ニアリ」とし、大隈左衛門慶の居舘であり、文政7年(1824)に城跡の東、「鑢ヘ口」という場所から礎石3つが掘り出されたとする。そして、現在の大隈天満宮が城地であるとしている。以上のことから大隈天満宮に城地が求められるが、明確な城館遺構は確認されておらず、詳細は不明と言おざるを得ない。
久留米 西部（東）		○		030598		**本文78頁を参照。**
久留米 西部（東）				030765		「軍誌」には「高瀬村舘跡」として両陣伊賀の舘跡であり、藩古村東山ヶ谷の宅の移り舘跡であるとする。両陣入濱宗付近に城地が想定されており、近隣の道鼠遺跡（筑後31）において中世の区画溝が検出されており、両陣舘との関連が想定されているが、全体的な構造を解明するには至っていない。
久留米 西部（東）				030949		県の分布地図（文献138）に「陣城跡」として「安上時代、丘陵、周囲に堀めぐらす、玉重宮夜郎隈氏の居城」とあるが、典拠は記されておらず、真偽は確かな所がない。現地にも明確な城館遺構は確認できないようであり、詳細は不明と言おざるを得ない。
久留米 西部（東）				030964		「軍誌」には「高三瀬村舘跡」として高三瀬武蔵ノ輔の舘で、三方に堀（髦）が巡り、その場所が「舘」と呼ばれているとある。また、その地には、富松氏の宅があり、宅内に屋敷があるとする。県の分布地図（文献139）には「富松氏の屋」（680023）があり、それを指しているものと思われ、その付近に城地が想定されるが、明確な城館遺構は確認できず、詳細は不明と言おざるを得ない。
久留米 西部（東）				030966		「三潴町史」(文献33)には高三瀬字池田から隈神社前の小路を横溝と言い、鎌倉時代に高三瀬村の地頭職に補任された横溝氏代々の屋敷跡と言い伝えられるという。また近くに文政3年(1819)に建った「オヤマツ」が残されている。現在神社の西側に標柱も建てられており、おそらくの場所は推定できるが、明確な城館遺構は確認されておらず、詳細は不明と言おざるを得ない。
久留米 西部（東）				**680039**		**本文79頁を参照。**
久留米 西部（東）		○		**680014** **680015**		**本文80頁を参照。**
久留米 西部（西）				690021		「軍誌」には「下田村城跡」として「建直王入道殿光が、下田村近郷の七邑を領し、寛正3年(1462)に下田村に居を構えたし、南北入十間、東西八十間であるとする。城島町下田地内に想定されるものの、「新考三潴郡誌」(文献20)にもあるとされ、詳細な場所は不明である。
久留米 西部（西）				690021		「軍誌」には「下田村城跡」として、「建直王の館の記載に続き、永禄3年(1560)に、村中の久重に城を築き、大友勢を防いだとある。また同7年には村の南に新川を掘り、要害にしたとある。また江戸時代にかかれた「神社私墓井地域帳之覚書」(文献46所収)の「潴郡下田村の項には「一城跡　堀廻摩字城跡と中伝候、無ヤ川脇ヒ、唯今ニては川中ニ微成居申候」とあり、既に川によって掘れてしまったことが記されている。城島町下田地内でなおかつ川に近い場所に想定されるものの、「新考三潴郡誌」(文献20)にもあるとされ、詳細な場所は不明である。
羽犬塚（西）				**690010**		**「『筑紫記』の江上上村（本村の誤とかの）の項に、「一江上殿古城跡　西江上上中殿へ有之候、前ヶ之城跡と中伝、只今田地ニ開成居申候」とある。また、『軍誌』には「江上村城跡所所」として「江上本村ノ内西江上ニ云ル地、江上三郎忠種ノ住城也、其地ハ王杜ノ上ニ当ル、中和田村ノ境也」とある。『新考三潴郡誌』(文献20)にも、江上村大字江上本字横166番地に江上殿の城跡(江上三郎の誤かか？)があり、そこには松浦の古木があるとされる。実際、その地番は今でも伝江上三郎墓とされている(文献150)。以上のことから、城島町江上本にある日吉神社の北側、林松寺の間の一帯に城地が想定されるが、戦後すぐの空中写真を見ると、非常に細ぐクリーガが入っており、戦国時代の城域を明確に想定できるような地形ではなく、詳細は不明と言おざるを得ない。**
羽犬塚（西）				**690011**		**「『筑紫記』の江上村の項に「一　江上殿古城跡　此馬頭ヶ上ヶ舘古賀と申伝、都而田地ニ開成居申候」とある。また『軍誌』には「江上村城跡所所」として、西江上の城跡の記載の後に、「又江上ヶ村ノ内ニ舘ノ古賀ト云ル地、江上四郎/古賀ト云ル地」とある。『新考三潴郡誌』(文献20)にも、江上村大字江上字舘諸帳182番地に江上三郎忠種(江上四郎の誤まかの)の城址があるとし、現在も江上182番地は城跡とされ、官有地で著宮神社が祀られている。同書には、城跡の東南部が「舘ノ前」、西部が「舘古賀」、北部に「東三ヶ丸、西三ヶ丸」の小字があるとし「舘跡の上部のとおり地震でさるが、戦後すぐの空中写真を見ても、畝溝のなどクリーガとかとなどがあっており、戦国時代の城域を明確に想定できるような地形とは言えず、詳細は不明と言おざるを得ない。**
羽犬塚（西）						江戸時代に書かれた「神社私墓井古城跡之覚書　三潴郡城島郡」(文献46所収)の三潴郡下青木村の項に「一城跡　鑢ノ江民部尉城跡之由申伝候」とあり、**鑢ノ江殿の舘址とゃい小屋ノ上ヒ記載する。これ以外に記載は見られず、また下青木地内に城館遺構が確認されていないため、詳細な場所も全く不明と言おざるを得ない。**
羽犬塚（東）						「『三潴町史』(文献33)には三潴町青松の字者ノ代には、東西70間、南北45間、之東南の三方に舘を囲ふし、西側は山ノ井川に面した場所があり、古老たちは城跡と呼び、「茂後屋敷」を引いて、後松村舘主の「白仁弾正入道鎮広の舘跡であるゃ」とする。現状は圃場整備が進み、全く見もちっかず、また舘前の地図や戦後すぐの米軍の空中写真を見ても、身代集落は、山ノ井川に並行あるいは直交するクリーガが多数入っており、**明確な城域を読み取ることは不可能であり、詳細は不明と言おざるを得ない。**
羽犬塚（東）						本文81頁を参照。
羽犬塚（東）						**「軍誌」には「生葉村舘跡」として「東西五十八間、南北三十九間、堀ロ廻東大間、南四間、北二十四間、西十三間、西本田氏常郎/舘跡、今ハ西本田本村ロ分田村ノ中ヤナル」とあるが、明確な舘址が不明であるため、詳細もまた不明と言おざるを得ない。**
羽犬塚（東）						「軍誌」には「西本田本村舘跡」として「東西二十五間、西南北三十間、南北二十五間」とあり、西本田氏の老臣・中牟正が居住したとする。「三潴町史」にも、舘所についてはは検討したが不明であるとされており、山西本田本村内に城地が想定されるものの、明確な舘所にはわからず、詳細は不明と言おざるを得ない。
羽犬塚（東）						「軍誌」には「西吉賀舘跡」として「東西二十六間、南北三十間、東一堀ヲリ、口廻二間、南北三十間ノ上手ヲリ」とあり、西本田氏家臣・高橋次郎家久が居したとある。「三潴町史」(文献33)には「農協西本田支所の北側の少し高めの一帯を「舘」と呼び、戦国時代には館があったといわれている」とあり、舘所を推定している(小字は古賀)。現在は住宅地となっているが、同書では以前は空地の一部が残っていたとある。城域は推定できるものの、明確な舘遺構は残存しておらず、詳細は不明と言おざるを得ない。
羽犬塚（東）						「軍誌」には「西本田舘跡」として、西本田氏家臣の長松右京の舘跡で、真光寺の境内地に当たるとする。真光寺の位置から城地は想定できるものの、明確な城館遺構は確認されておらず、詳細は不明と言おざるを得ない。
羽犬塚（東）				1341-13		江戸時代の地誌類には掲載されず、「新考三潴郡誌」(文献20)に「西本田城址」として「西本田村字舘にあり」とし、藤原道隆後裔の家臣入道行西が西本田を創し、城を築いたとする。その後、天正7年(1579)に生津城を築城して移ったとする。筑後市西本田の字舘に城地が想定されており、戦後すぐの米軍の空中写真などには、北側と西側に堀形に折れるクリーガなども確認されるものの、城館遺構と断定できず、詳細は不明と言おざるを得ない。
羽犬塚（東）						「軍誌」には「流村舘跡」として「其地ヲ本城ト云、舘ヲ詳ナラス」とある。また、同書の「福間村舘跡」の項には「大森軍記」からの引用として、横溝村瀬戸安を建立した瀬戸左近は瀬戸(筑紫瀬戸のことかの)を家とし、本国は筑前で、近村に住居ス的、本城ニハ云とある。「福岡県の城跡」(文献47)では三潴郡大木町にあるとしているが、大木町内に「流」の地名はなく、筑後市西本田にある「流」を指しているものと思われる。近隣に西本田城などと想定され、関同も考えられるが、いずれにせよ詳細な場所は確認できず、詳細は不明と言おざるを得ない。
羽犬塚（東）						「軍誌」には「福間村舘跡」として「西本田家臣田中大膳入道、石橋上野、並三当村二居ル、舘跡ヲ猶首又」とあり、二箇所の舘の存在を記している。詳細な場所については、「大木町史鎌・文化財めぐり」(文献133)には、場所不明としながらも、「「流の舘」という地名があるので、ここではなかろうかと土地の人はいっている」と、一応の推定地はあるものの、確証はなく、詳細は不明と言おざるを得ない。
羽犬塚（東）						「軍誌」の「福間村舘跡」の項には、「大森軍記」からの引用として、西本田氏の家臣に松浦右衛門佐が十八町を領し、草野弾馬に居住した上記に、おそらく旧福間村内にあったものと考えられるが、確証はなく、詳細な場所は不明と言おざるを得ない。
羽犬塚（東）						「軍誌」には「鞭池村舘跡」として「東西二十八間、南北三十間」や周囲に堀と南北に葉(土塁)があるとし、西本田氏家臣、中田荒助守家村の舘であるとする。「新考三潴郡誌」(文献20)には「字鞭址は本牧本村大字鞭池字鞭にあり、周囲に廻をめぐらし、敷地は五反余に及び、小高い鞭林の為に所は居舘前園中の堀はつあったらい傳えられている」とあり、(本牧本村役場調査)とあり、文献133には、そこと思われる舘跡に位置が示されるが、区画整理以前の地図や航空写真を見ても、周囲には堀状するような方形区画が見列しており、上記の舘所を特定することは困難である。

地域	No.	名称	よみがな	別称	旧郡名	所在地	関連地名	史料		地域					基本参考文献						種類	所在
								一次	参考	家訓	種々	旧城	全集	探訪	教委	大系	叢書	城郭	その他			
筑後	54	大藪砦	おおやぶ	大藪居館	三潴郡	三潴郡大木町大藪	高の城			○	○			○			○	○	20,113	平地城館か	○
筑後	**55**	**城ノ内城**	**じょうのうち**	**横溝城**	**三潴郡**	**三潴郡大木町横溝**					**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**20,113**	**平地城館か**	**●**
筑後	56	下林城	げばやし		三潴郡	大川市下林					○			○	○	○	○			不明	△
筑後	57	木室城	きむろ		三潴郡	大川市本木室	城の上・赤城			○	○			○	○	○	○	○	20	平地城館	●
筑後	58	酒見城	さけみ		三潴郡	大川市酒見	上城内・下城内・鍋畑	○		○	○			○	○	○	○	○	20,22,28	平地城館	◎
筑後	59	津村城	つむら		三潴郡	大川市津	城跡・二ノ丸		○	○	○				○	○	○	○	20,22,28	平地城館	◎
筑後	60	西田口城	にしたぐち		三潴郡	大川市三丸	城内			○	○				○	○	○	○	20	平地城館か	●
筑後	61	蒲池城	かまち	鎌池城	三潴郡	柳川市東蒲池		○		○	○			○	○	○	○	○	20,22	平地城館	●
筑後	62	谷山城	たにやま		山本郡	久留米市山本町豊田					○				○	○	○	○	17	不明	△
筑後	63	柳坂城	やなぎさか		山本郡	久留米市山本町柳坂				○				○	○	○	○	○		山城	△
筑後	64	飯田館	いいだ		山本郡	久留米市善導寺町飯田		○			○			○		○	○	○	25	平地城館	●
筑後	65	吉木館	よしき		山本郡	久留米市草野町吉木					○	○		○		○	○	○		平地城館か	△
筑後	66	吉野尾館	よしのお	草野館	山本郡	久留米市草野町吉木					○			○		○	○	○	24	平地城館か	●
筑後	**67**	**竹井城**	**たけい**	**武井城・竹之城**	**山本郡**	**久留米市草野町吉木**	**古城山**	**○**		**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**○**		**17,24,37,122**	**丘城・山城**	**◎**
筑後	**68**	**釣井城**	**つりい**		**山本郡**	**久留米市草野町吉木**					**○**							**○**	**24**	**山城**	**△**
筑後	**69**	**発心城**	**ほっしん**	**発心岳城**	**山本郡/竹野郡/上妻郡**	**久留米市草野町草野・田主丸町中尾、八女市上陽町上横山・上陽町下横山**	**蔵所**	**○**		**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**○**		**17,24,30,37,119,122,124**	**山城**	**◎**
筑後	**70**	**間本城**	**といもと**		**山本郡か**	**久留米市草野町か**			**○**											**不明**	**△**
筑後	71	島飼城	とりかい		竹野郡	三井郡大刀洗町三川				○	○	○			○	○	○	○	24	平地城館	●
筑後	**72**	恵利砦	えり		竹野郡	久留米市田主丸町恵利													119	平地城館	●
筑後	73	奴田館	ぬた		竹野郡	久留米市田主丸町豊城	城の内											○	119	平地城館	○
筑後	**74**	平家城	へいけ		竹野郡	久留米市田主丸町田主丸													119	平地城館か	●
筑後	75	平家城	へいけ	松門寺城・松門寺館	竹野郡	久留米市田主丸町常盤				○					○	○	○	○	119	平地城館か	●
筑後	**76**	小川館	おがわ		竹野郡	久留米市田主丸町船越				○	○		○	○		○	○	○	119	平地城館	●
筑後	77	諏訪館	すわ		竹野郡	久留米市田主丸町殖木				○		○		○		○	○	○	119	平地城館か	○
筑後	**78**	平家城	へいけ	諏訪平家城	竹野郡	久留米市田主丸町殖木				○		○		○	○	○	○	○	119	平地城館か	△
筑後	79	下笹尾岳城	しもささおだけ	笹尾岳城	竹野郡	久留米市田主丸町竹野									○	○	○	○	119	山城か	●
筑後	**80**	姥ヶ城	うばが		竹野郡	久留米市田主丸町地徳	姥ヶ城								○	○	○	○	119	山城	●

図幅名	調査データ 縄文図	調査データ 弥生図	包蔵地番号 発掘	包蔵地番号 県	包蔵地番号 市町村	概要
羽大堤(東)						『軍記』には「大藤村告諭」として「天正十一年猿田龍蔵骨守護へ、大木・中村・末吉/堂宮守護へ、大藤村・中村・末吉/堂宮守護へ」とある。『種々』では「大藤居館址」とする。現在、正確な場所がはっからなくなっており、詳細は不明と言わざるを得ない。しかし、『大木町史跡・文化財わくり』(文献113)には出典不明ながら、「大藤館跡」として元亨年、大藤の地頭として誅滅された高橋丹藤兵衛藤次大藤之助の居館と、大藤村と高橋丹の方堂屋敷に構えたとする。確認はかくない状況ながらあうこと城址として位置を推定する。調査整備前にこの地はグリークに調査れた量敷跡の様相を呈していたというが、それらが確認の区画を示すか否かは確認はなく、詳細は不明と言わざるを得ない。
羽大堤(西)	○		670007			『種々』三潴郡大津村横溝の項に「城ノ内城(蒲池氏)」と名を挙げての記述がある。文献31では「城ノ内の城」として「大津村字横溝字木村に城ノ内の城址という所がある。蒲池氏の別館の址である」と、蒲池五代の碑、筑後守助久は未詳の久弘を代官として一つの地に近郷を支配させたとある。現在、文献13などでは横溝木村の集落の西端に城地が推定されている。現地の状況、さらには戦後までの航空写真を見ても明確な城館遺構は確認できず、詳細な位置を含めて不明と言わざるを得ない。
羽大堤(西)						『種々』三潴郡二叉村下林の項に「下林城址」と記すのみ初出で、以降の文献も基本的にほこの記載を元にしているようである。大字下林地内にあることは想定できるが、それ以上の情報がなく、明確な城館遺構も確認されていない。
羽大堤(西)			120018			『軍記』には「木室村城跡」として「同年(天正12年)木室又兵衛脱走城、肥沃宇防ゲ」とある。宇城の上に城地が想定されている。経地整理前の空中写真や地図を見ると、周囲には、方形のクチーがたくさん点在しており、明確な城館遺構もしっかりとは確認できるとは断言できず、詳細は不明と言わざるを得ない。
羽大堤(西)			120061			**本文82頁を参照。**
羽大堤(西)			120071			本文83頁を参照。
羽大堤(西)			120049			『軍記』には「西田口村城跡」として「田口羽鹿居城ノ古跡也、其地ア城内ノ云」とある。城内という地名は現在は所在不明となっており、推定地は存在するものの、明確な根拠に欠ける。また、戦後の米軍の空中写真を見ても、明瞭な区画は存在せず、詳細は不明である。
羽大堤(西)	○		080059			『軍記』では「蒲池村城跡」として天慶年間に藤原純友の一族が籠も、後に蒲池家が代々の居城とし、柳川城を築城した後は、柳川城の出城となったとや、立花宗茂が柳川に入った際には、小野和泉守が守ったとされる。天正9年(1581)には、柳川城主蒲池鎮漣は龍造寺隆信に謀殺、本城柳川城と共に落城している。城跡の詳細な位置や構造をふまず既往文献とはふんどなく、『城郭』では西蒲池の強久寺の西側一帯が城址としており、現地には城跡の石垣も壁でもあっている。その一方で、『福岡県の城郭』では西蒲池の三島神社城の中心ではないかという説も出されているが、筑後平野一帯のクリーク集落の神社の多くは水路で囲まれており、それをもって城郭と即断できる状況でもない。そして、現状および戦後の米軍の航空写真、さらには大正年中の地図を見たところでも、城跡と判断できるような明瞭な区画は確認できない。よって、城の中心部分の位置を含め、詳細は不明と言わざるを得ない。国道385号線バイパスの建設に伴う近年の発掘調査では、中世期の遺構や遺物も確認されているため、今後の調査いかんによっては少明瞭に判明してくる可能性も考えられる。
久留米(東)			030730			『三井郡誌本』(文献17)には千光寺(谷山城)とし、南北朝時代の懐良親王が大保原合戦の後、山本千光寺に入ったとが記されている。また、『種々』には「谷山城址(谷山氏)」とあり、南朝方の城として捉えられていたようである。県の分布地図(文献138)では千光寺の西側の未勝寺の西の裏山に城地が推定されるが現地に乏しく、明確な城館遺構が確認されておらず、また千光寺そのものの有無しも可能性も考えられる。
久留米(東)						『軍記』には「柳原村城跡」として「山中ニアリ、南北十五間余、東西八九間、城主本夕群ラスト云ふる。柳原地内にあるとの考えられるが、詳細は確所や明瞭な城館遺構が確認されておらず、詳細は、不明と言わざるを得ない。
久留米(東)			030183			本文84頁を参照。
久留米(東)						『軍記』には「古木村館跡」として「赤司元/館跡也」とあり、赤司氏東の農夫宗作の宅地になることや、館の門の左右に藤香2株が植えられていたが、今は1株しかないことなどが記される。草野町古木地内にあることが想定されるが、詳細な場所が現在分からなくなっており、不明と言わざるを得ない。
久留米(東)						『軍記』には「同村(古木村)吉野尾館跡」として「同氏(草野氏)代々/居館也」と、さらに『寛延記』を引いて「悪鉢々塞地の跡は「南面松」といい、家中小路/鍋ハ今田島/赤ノケニ残レリ」とある。また、『寛延記』古木村の項の「小森大明神」の文中には、「草野氏代々ニ山城ノ麓、吉野尾御館下ニ小森あり」と記す。『郷土資料集』(文献24)の「竹井城址」の図(第40図)には、竹井城の北西側に「草野館址」などが館跡が記されており、鳥居本不明ながらも、これが吉野尾館を示しているものと思われる。そのため、おおよその場所は推測できるものの、現状では明確な遺構を確認することができず詳細は不明と言わざるを得ない。
草野(西)	○		030567 030736			**本文85頁を参照。**
草野(西)						**『軍記』には「寛延記」からの引用として「吉木村的井城跡」として「草野氏代々ノ城館也」とある。『寛延記』には「一的井城 右同断(中伝なし)」とする。竹井城(筑後石)の物見櫓がこれにあたる可能性も考えられるが、確証はないため、詳細は不明と言わざるを得ない。**
草野(西)	○		030595	15 (田主丸町)		**本文86頁を参照。福岡県指定史跡。**
草野(西)						**『豊前覚書』によれば、戸次道雪の娘、関千代が生誕した城と記される。文献から草野近辺にあることが想定されるものの、「照本」という地名やそれと思われる城館遺構も確認されていないため、詳細は不明と言わざるを得ない。**
田主丸(西)			650029			『軍記』には「鳥飼村城跡」として「東西二十四間、南北三十間、南面ニテ西方ヘ廻三間/堀アリ、今荒屋中内也、此城ハ新田義信/所築ト云」と記「富証記」を引いて記す。現在、城址の神なども見つされ、おおよその場所は推定されるが、明確な城館遺構は確認されず、詳細は不明と言わざるを得ない。
田主丸(西)						『浮羽郡古城址』(文献119)には「恵利の砦」として、秋月氏一族の恵利氏の文書に記載されるとし、恵利櫛元が恵利に砦を構えて居したとする。さらに同書は地形から見て三角の秋葉神社付近と推測する。三角の集落自体が方形の区画状を呈しているようにも見えるが、明確な城館遺構が確認されていないため、詳細は不明と言わざるを得ない。
田主丸(東)						『浮羽郡古城址』(文献119)には「取田居館跡」として、慈田とり高とり原の「城の内」と称する所を指すとある。田主丸町豊城の慈田地内にあることは想定されるが、詳細な場所は不明となっており、詳細もまた不明と言わざるを得ない。
田主丸(東)						『浮羽郡古城址』(文献119)には「平家の城 田主丸町吉田町」として「伝説によれば(ば)吉田町祇園社の南江戸川に近い地域に平家の城址という場所があり、昔の遺構がみつかったと伝えるが、今は開田されてなんら確認されるものはない」とある。吉田町の東妻嶋神社と長男川との間に城地が想定されるが、明確な城館遺構は確認されていないため、詳細は不明と言わざるを得ない。
田主丸(東)			640370	468 (田主丸町)		『浮羽郡古城址』には「松門村字家城跡」として、「城アリ、其地ア左平家城ト称ス」とあり、また、『浮羽郡古城址』(文献119)には「平家の城 水分村松門字上」の項の「家城の古城書上々『寛延記』」を引用し、「軍記」とは同様に記載する。さらに文献119では、家のことを述べては「ジャンジャン屋」と呼んでおり、古老談により松門字鳥居の北側の場所を指し示す。よって、場所は類推できるが、明確な城館遺構が確認されていない。詳細は不明と言わざるを得ない。
田主丸(東)			640364	468 (田主丸町)		『軍記』には「小川村館跡」として「村東南ニアリ、館ノ東西ニ一所、北ニ四所アリ、堀ノ長二百三十間、廣二間、東南ニアリ」とあり、大友氏家臣小川伊賀守の居館であるとする。館地とする場所には小川伊賀守のものと伝えられる石塔もあるが(文献119)、明確な城館遺構も確認されないため、詳細は不明と言わざるを得ない。
田主丸(西)			640036	38 (田主丸町)		『浮羽郡古城址』(文献119)には「草尾城跡 竹野村三間寺」として、三ヶ所あり、東宜上、上中下の三つに分けるとしたものの、全ての地点において城館遺構が確認されたかった(下筌尾城の地点のみ、後世の盛り大工造成段が多数あり、他の2ヶ所は自然地形のみ)。しかし、同書には竹野村の天満宮縁起に「天下筌尾嶽城址に興屋ホ云々」とあるため、下筌尾居城のみは城としての根拠が残されたため、場所不確実ながら一覧に掲げた。上筌尾居城は、中筌尾居城は城としての根拠がないため、掲載対象とした。
草野(西)			640057 640058	63・64 (田主丸町)		『浮羽郡古城址』(文献119)には「褶ヶ城址 南俗二西ノ米」として、城地から尾根伝いに詳細は不明の山腹部(お城峰)に同じ、五ケ所は砂の跡と思われる形平地があるとする。しかしながら、現地踏査の結果、これら全て自然地形がみられるのみ で、明確な城館遺構は存在しなかった。同書には、伝説として、草野城主草野太郎常門が豊後の国石井の里に秋ッた姫が後に当城に住んだことから城の名が起こったことを記している。そのため、城としての根拠が残され、場所不確実ながら一覧に掲げた。

地域	No.	名称	よみがな	別称	旧郡名	所在地	関連地名	史料		補足			基本参考文献							種類	所在
								一次	参考	軍談	種々	田城	全集	探訪	教委	大系	廣崎	城郭	その他		
筑後	81	西葛尾城	にしかづらお	西葛生城	竹野郡	久留米市田主丸町益生田									○	○	○	○	117～119	山城	◎
筑後	82	内山館	うちやま	内山城・麦生館	竹野郡	久留米市田主丸町益生田	城内	○	○		○	○			○		○		117～119,**121**	山城か	●
筑後	83	内山城	うちやま	東葛生城	竹野郡	久留米市田主丸町益生田		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		山城	◎
筑後	84	高野城	こうの	河野城	竹野郡	久留米市田主丸町益生田									○	○	○	○		山城	◎
筑後	85	高丸城	たかまる	麦生城	竹野郡	久留米市田主丸町益生田		○	○	○	○	○			○	○	○	○		山城	◎
筑後	86	小丸城	こまる		竹野郡	久留米市田主丸町益生田									○	○	○	○	117～119	山城	◎
筑後	87	平家城	へいけ	益永平家城・益永城	竹野郡	久留米市田主丸町益生田	平城			○	○	○	○		○	○	○	○		山城	◎
筑後	88	山ノ中城	やまのなか	石垣城・三ツタカ城・星野城	竹野郡	久留米市田主丸町石垣		○	○	○	○	○			○	○	○			山城	◎
筑後	89	新田城	にった		竹野郡	久留米市田主丸町石垣	城ヶ谷			○	○	○	○	○	○	○	○	○		山城	◎
筑後	**90**	城氏城	じょうし	籠の城	竹野郡	久留米市田主丸町石垣				○		○			○	○	○	○	119	山城	△
筑後	**91**	菅館	すげ		竹野郡	うきは市吉井町鷹取	馬場・蔵増		○	○	○	○				○	○	○	119	平地城館	◎
筑後	**92**	平家城	へいけ	森部の平家城	竹野郡	うきは市吉井町鷹取													119	山城	●
筑後	93	平家城	へいけ	冠城・冠平家城	竹野郡	うきは市吉井町鷹取				○	○	○			○	○	○	○	119	山城	●
筑後	94	鷹取山城	たかとりやま	鷹取城	生葉郡/竹野郡	うきは市浮羽町妹川・八女市星野村・久留米市田主丸町森部		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13,40,119,**128**	山城	◎
筑後	95	屋形館	やかた	豆塚長者館	生葉郡	うきは市吉井町屋部				○		○							**119**	平地城館か	△
筑後	**96**	清水城	きよみず		生葉郡	うきは市吉井町富永				○	○	○		○	○	○	○		117～119	山城	●
筑後	97	西の城	にしの	妙見西城	生葉郡	うきは市吉井町富永				○	○	○			○	○	○	○		山城	◎
筑後	**98**	妙見城	みょうけん	明願城・妙見山城	生葉郡	うきは市吉井町富永	小城	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	117～119,**134**	山城	◎
筑後	**99**	谷山城	たにやま	山ノ上城・小城・古城	生葉郡	うきは市吉井町福益						○			○	○	○	○	117～119	山城	◎
筑後	**100**	平家城	へいけ	妹川城・妹川平家城	生葉郡	うきは市浮羽町妹川	平家ヶ城			○	○	○	○		○	○	○	○	32,117～119	山城	◎
筑後	**101**	重虎城	しげとら		生葉郡	うきは市浮羽町妹川														山城	●
筑後	**102**	福丸城	ふくまる	福益城・延寿寺城	生葉郡	うきは市吉井町福益	城下		○	○	○	○	○		○	○	○	○	117～119	山城	◎
筑後	103	福丸館	ふくまる	福益館・延寿寺館	生葉郡	うきは市吉井町福益	室瀬・陣内・梶原屋敷・鍛冶屋敷・曲金屋敷・釜瀬屋敷・			○							○	○	118,119	平地城館	○
筑後	**104**	満願寺城	まんがんじ	妹川万貫寺城・万貫城・満願城	生葉郡	うきは市浮羽町妹川・吉井町福益				○	○	○		○	○	○	○	○	32,117～119	山城	◎
筑後	**105**	安山城	やすやま	大聖寺山城	生葉郡	うきは市浮羽町流川				○					○	○	○	○	32,119	山城	◎
筑後	**106**	立石城	たついわ	龍石城・立岩城	生葉郡	うきは市浮羽町流川				○	○	○	○		○	○	○	○	18,32,119	山城	●
筑後	**107**	井上城	いのうえ		生葉郡	うきは市浮羽町流川	城・城ヶ鼻		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		山城	◎
筑後	**108**	西ノ城	にしの	井ノ上西城	生葉郡	うきは市浮羽町流川									○		○	○	119	山城	◎
筑後	109	小坂館	こさか		生葉郡	うきは市浮羽町流川				○			○			○	○	○		平地城館か	△
筑後	**110**	井上館	いのうえ	問註所氏館・大村投館	生葉郡	うきは市浮羽町清瀬	小路			○		○		○			○	○	18,32,119	平地城館	◎
筑後	**111**	隈ノ上城	くまのうえ	西隈上城・日田氏館	生葉郡	うきは市浮羽町朝田		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	18,32,118,119	平地城館	◎
筑後	112	一之瀬館	いちのせ		生葉郡	うきは市浮羽町朝田				○	○	○	○	○		○	○	○	18,32,119	平地城館か	●
筑後	113	大石城	おおいし	久保城	生葉郡	うきは市浮羽町高見				○	○	○	○	○		○	○	○	32,119	平地城館	●
筑後	**114**	長瀬城	ながせ	原口城・西原口城	生葉郡	うきは市浮羽町高見	城丸		○	○	○				○	○	○	○	32,119	平地城館	◎

図幅名	調査データ 縄張図	測量図	発掘	包蔵地番号 県	市町村	概要
草野(西)				640079	91 (田主丸町)	本文92頁を参照。
草野(東)				640080	92 (田主丸町)	本文93頁を参照。
草野(東)				640082	94 (田主丸町)	本文94頁を参照。
草野(東)				640083	95 (田主丸町)	本文95頁を参照。
草野(東)						本文95頁を参照。
草野(東)				640189	235 (田主丸町)	本文97頁を参照。
草野(東)				640188 640191	234・237 (田主丸町)	本文98頁を参照。
草野(東)				640335	407 (田主丸町)	本文99頁を参照。
草野(東)				640333	405 (田主丸町)	本文100頁を参照。
草野(東)						『軍談』では「寛延記」を引き「同村(石垣村)城氏城跡」として「耳納山中ニアリ、城十郎太郎ノ居城也、岡ヨ一重アリ」とある。『浮羽郡古城址』(文献119)には「城址について踏査したが判明しない」とあり、石垣地内に所在するとが想定されるが、詳細な場所は不明である。
田主丸(東)						**本文102頁を参照。**
草野(東)						『寛延記』竹野郡森部村の項には「一城跡　平家の城と申伝後」とあり、『浮羽郡古城址』(文献119)には「平家の城　水渕村森部」として、現在の久留米市田主丸町との境近く字鎧ヶ坪と呼ばれる尾根をさらに上った標高380m地点にあるとする。想定される集所を現地踏査したところ、標高360～370m地点に自然地形からやや平坦な地形が見られ、そこから麓方向の尾根伝いに9世紀を中心とする須恵器や土師器が数多く散布している状況が確認された。しかし、複雑な中世城館遺構は確認できず、「寺跡」の地名が示すが如く、古代の宗教関連の遺跡が想定される。そのため、城郭の実態としては、詳細は不明と言おざるを得ない。
草野(東)						『軍談』には「冠村平家城跡」として「耳納山中ニアリ」と記すのみであり、『寛延記』は同様の記載である。『浮羽郡古城址』(文献119)には「平家の城　船越村冠」として、冠の天満宮の南約1kmの標高140mの丘陵の突端にあるとする。上記の記載や周辺の地形から、冠の集落に面した標高162mの丘陵突端頂部が城地と想定され、現地を踏査したものの、自然地形が見られるだけで明瞭な城館遺構はなく、詳細は不明と言おざるを得ない。
草野(東)	○					本文103頁を参照。八女市指定史跡。
草野(東)						**『軍談』には「星那村第跡」として「村中ニ豆屋長者第屯ノ跡アリ、今其地ヲ呼ア豆屋トス」とする。『生竹道覧』(篠山神社所蔵)には「豆屋」は場所不明となっているとする。また、『浮羽郡古城址』(文献119)には「豆屋長者の跡」として、本橋辛に「神内長者の碑」があり、元ヶ田星那村と深迫村との境にあったとされるものの、神内長者の碑と豆屋長者が同一かどうかも不明としている。それぞれ『軍談』では「星那村」としているため、神内長者とは場所が異なっているような印象を受ける。そのため、豆屋の場所については不明と言わざるを得ず、詳細も不明である。**
草野(東)				630085	044	『軍談』には「千代久村清水城跡」として「東西五間、南北七間、耳納山中ニアリ、城主詳ナラス」とある。寛文の古城址書上や『寛延記』「古城」とする他は、ほぼ同様の記載である。『浮羽郡古城址』(文献119)には「清水城　海抜二二〇米」として、弦掛峠から北に分岐した丘陵上の突端にあるとし、鈴見城と石垣城と繋がるように設けたものとする。現地を踏査したが、自然地形であり、明瞭な城館遺構は確認されなかったが、土師器の散布が散在しているのは城跡とした。城地としては十分妥当性はあるが、詳細は不明である。
草野(東)	○					本文104頁を参照。
草野(東)	○			**630085**	**044**	本文105頁を参照。
草野(東)						**本文107頁を参照。**
草野(東)				**620131**	**055**	**本文108頁を参照。**
草野(東)						**『浮羽郡古城址』(文献119)の「綾川城」には綾川城(平家城(筑後100))の左前城の突端に鹿虎城(仮称)(星野氏一族茶郷入道鹿虎の居城と いう)があるとする。『生葉郡外誌略』(第97図)にも「茶郷(虎ヵ)城」と記されており、平家城の東、標高449mの尾根頂部が城地と推定される。しか し現地は自然地形がみられるだけで明瞭な城館遺構はなく、詳細は不明と言おざるを得ない。**
千足(西)	○			**630061**	**070**	**本文109頁を参照。**
千足(西)				**630059**		**『寛延記』延寿寺村の項に「一館　壱ヶ処　今郷ニ成居申候。此節観音堂一宇アリ」とあり、『浮羽郡古城址』(文献119)には延寿寺集落の東にある「血留の鳳音堂」の上に「館畑」と称する広い平地があり、星野氏重代の居館跡と伝えられていたと、宝蔵、神戸、種則屋敷、鍛冶屋敷、血金屋敷、茶郷屋敷などの地名が残されているとある。現在、血留観音堂を初め、「上多知」「下多知」「東多知」「神内」「血留」「鍛冶屋敷」などの字名が集落近くに残されており、およその場所は把握できるが、明瞭な城館遺構を確認することができず、詳細は不明と言おざるを得ない。**
千足(西)/草野(東)				620125	053	本文111頁を参照。
千足(西)	○			620037	068	本文112頁を参照。
千足(西)				620036	069	『寛延記』「岡村立石城跡」として「東西三十間、南北五十間、岡辺所ノ支城也」とあり、岡辺所氏と星野氏が当城を巡って争う様子を記す。寛文の古城址書上や『寛延記』などにも同様の記載がみられる。また、『浮羽郡古城址』(文献119)には「立石城　海抜三三五米」として、安山城と井ノ上城の南側背後の標高332mの頂部を城地とする。しかしながら、現地には石の由来も関連しそうな巨岩が見られるものの、基本的には自然地形であり、明瞭な城館遺構を確認することはできず、詳細は不明と言おざるを得ない。安山城の説明でも述べたように、本書で安山城とした場所が立石城の可能性もあることを含め、今後検討を要する。
千足(西)				**620035**	**067**	**本文113頁を参照。**
千足(西)				**620035**	**067**	**本文114頁を参照。**
千足(西)						『軍談』には「同村(小坂村)館跡」として「岡辺所氏代々ノ居館也、其地ヲ古川野ト号ス」とある。また『寛延記』の小坂村の項には「一館　壱ヶ処　村上ニアリ　右同断」とする。現在、古川野の地名の痕跡が不明であり、所在地含め詳細は不明と言おざるを得ない。
千足(西)/吉井(西)				**630046**	**038**	**本文115頁を参照。**
千足(西)				**620004**	**063**	**本文116頁を参照。**
千足(西)				620023	076	『軍談』には「朝田村一之瀬館跡」として「東西三十間、南北五十間、町野藤助重信居之」とし岡辺所善長と争ってともに滅びしたことが記されている。『寛延記』生葉郡朝田村の項にも「一館跡敷一ヶ処　峯山ノ際ニアリ、小坂城主岡信(註)所館ノ由申伝ヘ作所ニ相成居候」とあり、岡辺所氏の配下を、一之瀬集落の西側の丘陵上に想定されている。また、果樹園となっていると共に、耕集墳が点在しているものの、明瞭な城館遺構は確認できず、詳細は不明と言おざるを得ない。
吉井(東)				620052	083	『軍談』には「大石村城跡」として「今ノ庄屋宅地回城跡也、四方堀アリ、廣成二間、成五間、天正年大石丹後守居之」とある。『浮羽郡古城址』(文献119)には通称を「久保城」ともいい、旧庄屋屋敷内は城地を想定するが、範囲などは不明瞭であるとしている。大字高見字森前の天満宮に城地が想定されているが、周囲は集里地割のような整然とした地割が広がっており、城域を推測するすべはなく、詳細は不明と言おざるを得ない。
吉井(東)				**620055**	**084**	**本文117頁を参照。**

地域	No.	名称	上みがな	別称	旧郡名	所在地	関連地名	史料		地図	基本参考文献									種類	所在
								一次	参考	軍談	稙々	旧城	全集	探訪	教委	大系	廣崎	城郭	その他		
筑後	115	峯山城	みねやま		生葉郡	うきは市浮羽町三春				○		○			○			○		平地城館か	△
筑後	116	瘤熊館	いりくま	入隈館・尼ノ長者居館	生葉郡	うきは市浮羽町三春・山北				○		○				○	○	○	32,119	平地城館	●
筑後	117	岸山城	きしやま	保木城	生葉郡	うきは市浮羽町山北						○			○	○	○	○	32,119	山城	●
筑後	118	小塩城	こじお	笹隈城	生葉郡	うきは市浮羽町小塩	古城			○	○	○	○		○	○	○	○	32,119	山城	●
筑後	119	高井岳城	たかいだけ		生葉郡/豊後国	うきは市浮羽町小塩・大分県日田市川下		○		○	○	○	○		○	○	○	○	32,104,119	山城	◎
筑後	120	小椎尾氏館	こじおし	越生氏館	生葉郡	うきは市浮羽町小塩													119	平地城館	●
筑後	121	小椎尾氏別館	こじおし		生葉郡	うきは市浮羽町小塩	小松堀												119	平地城館	○
筑後	122	東山城	ひがしやま	鳥山城	生葉郡	うきは市浮羽町小塩				○			○		○	○	○	○	32,119	山城	●
筑後	123	長岩城	ながいわ		生葉郡	うきは市浮羽町新川		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	32,119	山城か	◎
筑後	124	松尾城	まつお	田籠城	生葉郡	うきは市浮羽町田籠	城平	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	32,119	山城	◎
筑後	125	高岩城	たかいわ	寺ん城	生葉郡	八女市星野村				○	○	○	○		○	○	○	○	13	山城	◎
筑後	126	白石城	しらいし		生葉郡	八女市星野村	城山	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	13	山城	◎
筑後	127	十籠館	じゅうごもり		生葉郡	八女市星野村				○						○	○	○		平地城館か	△
筑後	128	千々谷館	ちぢや		生葉郡	八女市星野村				○						○	○	○		平地城館か	○
筑後	129	浦館	うら		生葉郡	八女市星野村				○						○	○	○	40	平地城館	●
筑後	130	内城城	うちじょう	妙見城	生葉郡	八女市星野村				○					○	○	○	○		山城か	●
筑後	131	本星野館	ほんほしの		生葉郡	八女市星野村				○	○				○		○	○	40	平地城館	●
筑後	132	高島城	たかしま		生葉郡	八女市星野村				○						○	○	○		山城	△
筑後	133	アイノツル城	あいのつる		上妻郡	八女市矢部村北矢部							○		○	○	○	○	13,35	丘城か	●
筑後	134	高屋城	たかや	矢部山城	上妻郡	八女市矢部村矢部			○		○	○	○	○	○	○	○	○	13,22,35	山城	◎
筑後	135	栗原城	くりはら		上妻郡	八女市矢部村矢部			○	○	○		○	○	○	○	○	○	13,22,35	山城	○
筑後	136	虎伏木城	こぶしき		上妻郡	八女市矢部村北矢部	遠見鼻・横ン本・賀籠ン掘場・射ン場ノ本												35	山城	●
筑後	137	篠足城	つきあし	月足城	上妻郡	八女市黒木町大淵				○	○			○	○	○	○	○	13,22	山城	◎
筑後	138	白牧大岩屋名城	しらまきおおいわやな	向城	上妻郡	八女市黒木町笠原				○					○	○	○	○	13	山城か	●
筑後	139	地下名城	じげな	大岩空堀城	上妻郡	八女市黒木町笠原				○	○			○	○	○	○	○	13	山城	◎
筑後	140	高辛礼城	たかわれ	高群城	上妻郡/生葉郡	八女市黒木町笠原・星野村		○	○	○	○		○		○	○	○	○	13,91,132	山城	◎
筑後	141	熊野堂城	くまのどう	大淵城	上妻郡	八女市黒木町大淵				○	○			○	○	○	○	○	13,22	山城	◎
筑後	142	立華城	たかはな	鬱花城・立花城	上妻郡	八女市黒木町木屋				○		○		○	○	○	○	○	13,22	山城	●
筑後	143	猫尾城	ねこお	黒木城	上妻郡	八女市黒木町木屋		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13,22,91,126,127	山城	◎
筑後	144	鷲岳城	わしがたけ	高城・鷲ヶ城	上妻郡	八女市黒木町木屋	東城・中城・南城・西城・城の谷・芋生堀			○	○			○	○	○	○	○	13	丘城か	●
筑後	145	兎城	うさぎ	鬼城	上妻郡	八女市黒木町十窪												○	13,140	山城	◎
筑後	146	生駒野城	いこまの	鼻城	上妻郡	八女市上陽町下横山				○	○	○			○	○	○	○	30	丘城	◎
筑後	147	前川内城	まえかわち	江後前川内城・辺春城	上妻郡	八女市立花町上辺春		○	○			○						○	13,33	山城	●
筑後	148	熊ノ川城	くまのかわ	熊河城・辺春城	上妻郡	八女市立花町上辺春		○	○	○	○			○	○	○	○	○	13,22,33	山城	◎

関報名	調査データ 縄張図	測量図	発掘	包蔵地番号 県	市町村	概要
吉井(東)						『耳鼎』には「同村(西原口村)峯山城跡」として「時代博ハラス」とある。峯山という地名の場所が不明であるため、詳細は未不明と言わざるを得ない。
吉井(東)				620064	086	『耳鼎』には「東原口村鹿飼舘跡」として「巨長者の宅跡で、神(尼ガ薗神)や古井戸が残り、豊前坊というとある。『浮羽の古城址』(文献119)には由緒付大三郎子豊前坊にあり、秋葉神社背後の高台にあるとする。『浮羽町史』(文献32)には城跡の写真として、石銅が写っているものの、明確な城郭は見つかっておらず、詳細は不明と言わざるを得ない。
千足(東)				620098	096	『浮羽郡古城址』(文献119)には「付属する「福岡縣浮羽郡内古城分布図」(第1図)の浮羽町の岸山の丘陵上に城の印が付されているのが初出で、同書には高井嶽城の項に「岸山(岸山城)の砦を構えて」と記すのみであり、不明瞭ながら高井岳の出城としているようである。また『種々』の浮羽郡山春村三春の項に「原ロ城址」とあり、これは長瀬城の誤認と思われるが、『福岡県の城』の浮羽町三春の項目に「原ロ城」として「岸山城ともいう。大友氏家臣の野村氏の城」とあるが、明らかに長瀬城(原口城)と岸山城を混同していたため、原口城を別称とするのは間違いとみられる。文献33には、「保木城」として「山春保木岸山の山上にあって」とし、江藤氏の記録によると江藤佐太郎が保木に移住してその子孫が築城、大友方であったが焼き討ちに遭い、落城したと記す。なお、城地は現在果樹園となっており、人工的に平坦面が形成されているが、堀などの明確な城郭遺構は確認できず、詳細は不明である。
千足(東)				620108	090	『耳鼎』には「山獺山北村/堀ニ字」、城地ヲ簡陋ト云、里老云、山北氏ノ所領也」とある。『寛延記』は城主・時代不詳としている。簡の微の集落の背後にある字古城に城地が想定されるが、丘陵全体が果樹園と思われる後世の造成がなされており、明確な城郭遺構は確認できず、詳細は不明と言わざるを得ない。
千足(東)	○			620099	099	本文118頁を参照。
千足(東)				620103	101	『浮羽郡古城址』(文献119)の「東山城」の項には「鎌生氏の居館跡は城址の麓東々で、同所は前に小塩川の流流を望み、後に東山城を負い、この天嶮の地を相して居館を構えていたのであろう」とある。分布地図等では、岩屋堂の集落、小塩川の左岸に無入寺跡と共に周知の包蔵地とされているが、明確な城郭遺構の有無については不明である。
千足(東)						『浮羽郡古城址』(文献119)の「東山城」の項には「又小塩小松尾に前館跡(別館)と称する地がある」と記す。小松尾の地名は現在でも残り、おおよその場所はわかるが、明確な城郭遺構は確認されず、詳細は不明と言わざるを得ない。
千足(東)				620100	102	『耳鼎』には「東山城跡」として「小椎尾氏代々ノ居城也」とする。『浮羽郡古城址』(文献119)には「東山城(一名鳥居)海抜四五〇米」として「小椎尾神社の南方に聳立する峰峰の山頂にあるとする。小椎尾神社の南側の標高449mの山腹上に位置するとされるが、現地は自然地形がみられるばかりであり、明確な城郭遺構は確認できず、詳細は不明と言わざるを得ない。
千足(東)	○	○		620115	094	本文119頁を参照。
千足(東)				620116	098	本文120頁を参照。
十籠(西)	○					本文122頁を参照。
十籠(西)	○					本文123頁を参照。
十籠(西)						『耳鼎』には「同村(星野村)十籠館跡」として「磯口次郎太郎構之、代々居之」とある。十籠地内にあるものと思われるが、現在詳細な場所は不明であり、これ以上の情報はない。
十籠(西)						『耳鼎』には「同村(星野村)千々谷館、浦館跡」として「磯口藤前守盟居館也、後座ノ腔ニ移ル」とあるが、磯口藤前守盟居館は鎌倉時代にていたことがわかる。浦館の近隣にあるものと思われ、小字に「千々谷下」があり、現在の星野低狭示館がある辺りに推測されるものの、詳細は不明と言わざるを得ない。
十籠(西)				740043		『耳鼎』には「同村(星野村)千々谷館、浦館跡」として「磯口藤前守盟居館也、後座ノ腔ニ移ル」とあるため、磯口藤前守(星野鬼實十四代の孫と伝える)が生和辺千々谷館を盟居館していたが、後に浦館に移ったようであるとされるが、『星野村史』(文献40)には、天正17年(1589)のこととする。現在、浦館跡は市指定史跡となっており、場所は把握されているが、詳細な構造については不明である。
十籠(西)/黒木(東)				740047		『耳鼎』には「同村(星野村)内城城跡」として「星野鬼實墓之」とある。県の分布地図(文献140)では「鈴見城跡」として本星野館の東側の山麓上が城址とされるが、現地は自然地形がみられるばかりであり、詳細は不明と言わざるを得ない。
黒木(東)				740021		『耳鼎』には「同村(星野村)本星野館跡」として「星野鬼實墓之、代々居之」とある。現在、本星野の集落には「星野氏館跡遺蹟」が八女市指定史跡として残されており、そこが館地と考えられるが、館の範囲や構造などの詳細は不明である。
黒木(東)						『耳鼎』には「同村(星野村)高鳥城跡」として「星野鬼實墓之」とある。星野村内に所在するものと考えられるが、「高鳥」という地名もなく、高屋城の間違いかとみられるが、城主名が異なっており、妥当性に欠く。全くこれ以外の情報がなく、詳細は不明である。
宮ノ尾(東)				750006		本文124頁を参照。
宮ノ尾(東)				750007		本文124頁を参照。
宮ノ尾(東)				750008		『耳鼎』には「栗原城跡」として「玉後左馬頭栗原栗原伊賀守代々ノ居城也」とある。県の分布地図(文献140)には栗原鬼鹿の東側の丘陵上に城地が想定されているが、現地は自然地形がみられるばかりであり、明確な城郭遺構は確認できない。文献35には「城址の位置がどこなのか古老に聞いても知らないという」とあり、明確な所在が不明である可能性も考えられる。
宮ノ尾(東)						文献35には南北朝時代に懐良親王が居した城と伝えるとあり、旧高鳥小学校の校歌の一節にも「皇子のいます虎伏木城」とあるとされるが、虎伏木集落の東側の丘陵上に位置するとあるが、現地は自然地形がみられるばかりであり、明確な城郭遺構は確認できず、詳細は不明と言わざるを得ない。
十籠(西)/宮ノ尾(西) | | | | 710062
710102 | | 本文125頁を参照。 |
十籠(西)/黒木(東) | | | | 710078 | | 『寛延記』には「一谷牧大岩 屋敷名ノ向、城跡ニ中伝候」とあり、『耳鼎』には「同村(鹿子尾村)白牧大岩屋名城跡」として「向城ヲ号、城主詳ララス」とある。『福岡県の城』には「大友氏が猛尾城攻めの時の向城を築いた」とあるが根拠不明である。県の分布地図(文献140)では笠置の鬼納内集落の西側の丘陵上に城地が想定されているが、現地は自然地形、あるいは後世の畑地造成が見られるばかりであり、明確な城郭遺構は確認できず、詳細は不明と言わざるを得ない。 |
十籠(西)/黒木(東) | | | | **710077** | | **本文126頁を参照。** |
黒木(東) | ○ | ○ | | | | **本文126頁を参照。** |
黒木(東) | | | | | | **本文128頁を参照。** |
黒木(東) | | | | 710050 | | 文献33には「立藤城址」として「黒木城主の一族木屋弾正左衛門尉行貴城主たり」とあるが、『田柳川藤志』(文献22)には「立藤城跡」として「辺春隠棲由緒、黒木町、領地11丁、1本に隠棲由は高梁城主なり。後考を待つ」があり、それと1対に「木屋の衛花城跡」として上記と同じく木屋弾正を城主として掲載する。ここではとりあえず同一のものとして扱うが、県の分布地図(文献140)には大谷の集落の西側丘陵上を城地とするが、現地は自然地形がみられるばかりで明確な城郭遺構は確認できず、詳細は不明と言わざるを得ない。 |
黒木(西) | ○ | ○ | ○ | | | 福岡県指定史跡、本文129頁を参照。 |
黒木(西) | | | | 710020 | | 『耳鼎』には「鷲嶽城跡」として「黒木西原定善/南鷲也」とあり、城の周りに肥後国和仁氏の南領、宇生の村民が襲ったという「宇生城」と呼ばれる場を巡らし、鷲に拠を構えたとある。また、文献33には「鷲ヶ嶽城址」として、上記の記載に加え、「和仁氏の宿は黒木(猫尾)城主源助恵の息女で、鷲に拠を構えた所は「猫屋敷」と呼ばれていようとも、地元では、「高鷲」と呼ばれ、上記の私説に加え、南朝方の良成親王が城址とした上、東城・中城・南城・西城の4城からなるとする。その内、「城の谷」と呼ばれる「南城」には南北朝時代の石塔群があり、「南城の石塔群」として八女市指定史跡となっている。現地はこの石塔群の他には、燒地かとっており、明瞭な城郭遺構を確認することができず、詳細は不明と言わざるを得ない。 |
黒木(西) | | | | 700005 | | 本文131頁を参照。 |
黒木(西) | | | | 710012 | | 本文131頁を参照。 |
野町(東) | ○ | | | 720216 | 50003
(立花町) | 『福岡県の城』では地元では迫春氏の本城と伝え、迫春鹿堂が居城したとする。県の分布地図(文献140)では、熊ノ川城(筑後148)の南側の標高272mの山麓頂部を城地とするも、現地は畑地造成による平坦面や石垣が見られるものの、明瞭な城郭遺構は確認することはできない。しかしながら『豆鼎』に記載される「遭春城」の所在地書は、件の分布地図の「江後黒川内城」と同じ地点であり、文正5年段階における「辺春城」がこであったという認識を加えることができる。ちなみに同書には「白山城 城主・大麻長鷹」として天平上宗16568年地を所在する記載も確認されが、その場所は当城の西方にある集落内に位置している。今回は一覧には列記しなかったが、ここに記し、後考を待つこととしたい。 |
野町(東) | ○ | | | 720215 | 50002
(立花町) | 本文132頁を参照。 |

地域	No.	名称	よみがな	別称	旧郡名	所在地	関連地名	史料		絵図		基本参考文献							種類	所在
								一次	参考	軍談	種々	城	全集	探訪	戦史	大系	街道	城郭	その他	
筑後	149	高粱城	たかすだ	篤原城・篤城・高須田城・高粱谷篤城	上妻郡	八女市立花町下辺春	城山			○	○	○	○	○	○	○	○	○		山城	◎
筑後	**150**	白木城	しらき	藤山城	上妻郡	八女市立花町白木		○		○	○		○	○	○	○	○	○	13,22,33	山城	●
筑後	151	平家塚城	へいけづか		上妻郡	八女市立花町白木													13	平地城館か	○
筑後	**152**	**城平山城**	**じょうでらやま**		**上妻郡**	**八女市立花町白木**													**22**	**山城**	**●**
筑後	153	仙頭屋敷城	せんどう		上妻郡	八女市立花町白木か													13	不明	○
筑後	**154**	久保山城	くぼやま		上妻郡	八女市立花町か													13	不明	△
筑後	155	**山下城**	**やました**	**人見城・笹城**	**上妻郡**	**八女市立花町北山**	**城山・城ノ谷**	○	○		○	○		○	○	○	**○**	**○**		**山城**	**◎**
筑後	**156**	**国見岳城**	**くにみだけ**	**山下国見岳城・国見城・舞鶴城**	**上妻郡**	**八女市立花町北山**		○	○	○	○		○		○	○	○	**○**		**山城**	**◎**
筑後	157	鞍掛城	くらかけ		上妻郡	八女市立花町北山					○		○		○	○	○		**13,22,33**	山城	△
筑後	**158**	**山崎城**	**やまざき**	**笹上城・平林城**	**上妻郡**	**八女市立花町山崎**	**城山・城ノ下**	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		**山城**	**◎**
筑後	**159**	**兼松城**	**かねまつ**	**高山城**	**上妻郡**	**八女市立花町兼松**	**城山**		○	○	○	○	○	○	○	○	**○**	**○**		**山城**	**◎**
筑後	**160**	**三ノ瀬城**	**さのせ**		**上妻郡**	**八女市立花町下辺春**											**○**	**○**	**22,33**	**山城**	**◎**
筑後	**161**	**谷川城**	**たにがわ**		**上妻郡**	**八女市立花町谷川**		○	○	○	○	○	○		○	○	○	**○**	**13,33,131**	**丘城**	**◎**
筑後	**162**	酒井田館	さかいだ	酒井田城	上妻郡	八女市酒井田			○	○	○			○	○	○	○	○	13	平地城館	○
筑後	163	柳島城	やなじま		上妻郡	八女市北田形	城ノ峯・城の谷			○	○			○	○	○	○	○	13	丘城か	○
筑後	**164**	**犬尾城**	**いぬお**	**川崎城**	**上妻郡**	**八女市山内**		○	○	○	○	○	○	○	○	○	**○**	**○**	13,**90**,**129**	**山城**	**◎**
筑後	165	鷹尾城	たかお	笹ノ城・舛形城	上妻郡	八女市山内・大籠				○	○	○	○	○	○	○	○	**○**	13,**129**	山城	◎
筑後	**166**	茶臼城	ちゃうす	茶臼山城・長野城	上妻郡	八女市長野				○	○			○	○	○	○	○	13	山城	△
筑後	167	城跡山城	しろあとやま	東山城・東山館	上妻郡	八女市長野か				○					○	○	○	○		山城	△
筑後	**168**	鶴見山館	つるみやま		上妻郡	八女市豊福	屋形原			○	○			**○**			○	○	13	平地城館か	○
筑後	169	川崎氏館	かわさきし	川崎屋敷	上妻郡	八女市豊福						○							13	平地城館か	●
筑後	**170**	本館	ほん	本村館	上妻郡	八女市本	館山			○	○			**○**		○	○		13	平地城館か	○
筑後	171	国武館	くにたけ	中野屋敷・中野大勝光臣館	上妻郡	八女市国武				○	○			**○**		○	○	○	13	平地城館か	△
筑後	**172**	蒲原館	かまはら		上妻郡	八女市蒲原	館屋敷・屋敷・弓場		○	○	○			○		○	○	○	13	平地城館	●
筑後	173	吉田館	よしだ		上妻郡	八女市吉田			○	○				○		○	○	○	13	平地城館か	△
筑後	174	鬼ノ口城	おにのくち	甘木城・甘木河内守城	上妻郡	八女市広川町水原	城ノ尾			○	○	○	○		○	○	○	○	13,47	山城	◎
筑後	175	馬場館	ばば	甘木河内守館	上妻郡	八女市広川町水原			○	○	○				○		○		13,47	平地城館	●
筑後	**176**	城ノ尾城	じょうのお	長延館・長延城・萩尾城・萩尾麟可館	上妻郡	八女郡広川町長延	城ノ尾		○	○	○		○	○	○	○	○	○	13,47	丘城か	●
筑後	177	山王山城	さんのうざん	長延城・長延館・西城	上妻郡	八女郡広川町長延			○	○			○	○	○	○	○	○	13,47	丘城か	●

図幅名	調査データ			包蔵地番号		概要
	縄文図	弥生図	古墳図	県	市町村	
野町(東)				720218	46002 (立花町)	本文133頁を参照。
野町(東)				720217	30019 (立花町)	『軍談』には「白木城跡」として「天正7頃、豊臣左馬大夫居城也」とある。文献13には「白木城址　一名藤山城」として、上記の記載に加え、天正年間に鹿造寺幾信により、背後のノガキ山から攻められて落城したことが記載されある。白木川東岸の標高136mの頂部が城地とされる。その現地には上妻神社の祠があり、神社に伴うと思われる平坦面が確認できるにはがありつつ、明瞭な城郭遺構が確認できないため、詳細は不明と言おざるを得ない。
野町(東)				30022 (立花町)		文献13の「白木城址」の項に、「郡の原に城あり、之を平家屋と称す、其藤山城の西側に在るり見れば、成は是該城弦蒂当時の概没者の凝なるやも、計り難し」とあり、白木城（藤山城）の西側に城があることを示している。実際、白木城の南西、直鹿尾の集落内に「平家塚」と伝えられる場所も残されているが、明瞭な城郭遺構は確認されておらず、詳細は不明と言おざるを得ない。
野町(東)						**『豆柿川(藤五郎)[文献22]には「白木の城平」として「城郭記に上妻越前守の居城の跡と々せり」とある。白木集落の南東に聳える城平山(標高346m)山頂にあるものと想定され、現地を踏査したが、石碑に加え、城郭とは無關係と思われる遺成跡が見られるばかりであり、詳細は不明と言おざるを得ない。**
野町(東)						文献13には「仙福屋敷」として「右古城址と云ひ伝ふ」とある。岩春村の熊川城址と白木村白木城址との間に記載されている。「仙福屋敷」そのものを見出すことは難しいが、大字白木に「瀬戸」という小字があり、「仙福」が訛って「瀬戸」になったとも考えられ、そこにある可能性が高いが、確証はなく、詳細は不明である。
八女(東)						文献13には「久保山城址」として「右城址と云ひ伝ふれども、城主年代等知るに由なし」とある。岩春村の熊川城址と白木村白木城址との間に記載されているが、八女市立花町周辺にあるものと思われ、実際、大字谷川や原島などには「○○久保」などの小字がみられるのに、明確な位置はわからず、詳細は不明と言おざるを得ない。
八女(西)	○			**720170**	20108 (立花町)	**本文134頁を参照。**
八女(西)	○			**720165**	20060 (立花町)	**本文135頁を参照。**
八女(西)				720164		文献13には「駿掛城址」として、「上妻名勝図絵」を引き、「右蒲池家の城跡なり、北眼水と云ふ薬水ありて、七夕の水とも云ひるが、今は絶へなし、此所に七夕祭あり」とある。『旧柳川藩志』(文献22)には「其の鼓瀬かならず」とある。名称からは北可吏北山の駿懸集落周辺にあるものと思われ、また山下城を指している可能性も指摘されているが、根拠不十分である。また、文献33では国見岳城の北西側の尾根上に想定されているものの、現地は自然地形あるいは畑地等の校正の造成が著しく明瞭な城郭遺構は確認できず、詳細はやはり不明と言おざるを得ない。
八女(東)				**720166**	10127 (立花町)	**本文136頁を参照。**
八女(東)	○			**720167**	10053 (立花町)	**本文137頁を参照。**
八女(東)	○				40001 (立花町)	**本文138頁を参照。**
八女(東)	○			**720168**	10041 (立花町)	**本文139頁を参照。**
八女(東)				110319		『軍談』には「酒井田村館跡」として「村ノ東北ニアリ、其地字長田ト云、酒井田氏ヤノ館跡ナリ、時俗長田殿ト称シツト」とある。現在の字長田の地内にあったと考えられるが、明瞭な城郭遺構は確認されておらず、詳細は不明と言おざるを得ない。
八女(東)						『蒐延記』の上妻郡柳嶋村の項に「一城ノ東ノ辛ニ村東山ニ城跡御座候、城主相知不申候」とある。文献13には『軍談』や『筑後秘鑑』を引いて「今所残る」とある。柳島地内の東側の丘陵上に「城ノ峰」の小字が残るためその近辺に存在したものと考えられるが、明瞭な城郭遺構の存在する場所がないため、詳細は不明と言おざるを得ない(本事業では現地未踏査)。
八女(東)	○	○	○	**110216**		**本文140頁を参照。**
八女(東)	○			110217		**本文141頁を参照。**
八女(東)						『蒐延記』上妻郡長野村の項には「一もゝヤ城と申黒首伝源座候得共、何の代のも相知不申候」とある。また、『軍談』には「長野村城跡」として「茶臼ノ城ト号ス、城主分明ナラズ」とあり、また同書の「川崎庄山内村大尾城跡」の項には「大尾城ノ東ニ茶臼山云ズリ(中略)川崎支城ノ跡ナリ」とある、大尾城の東側には現在、明瞭な城郭遺構の存在する場所や伝承地がないため、詳細は不明と言おざるを得ない(本事業では現地未踏査)。
八女(東)						『蒐延記』の「川崎庄山内村大尾城跡」の項には「大尾城ノ東ニ茶臼山云ズリ、其東山腹ニ城跡山云ズリ、両所共ニ川崎支城ノ跡ナリ」とある。『豊後』では上記の「東山腹ニ」の記載を元に「東山腹」とされたとある。また、『城郭』の「東山腹」は「教妻」の「東山城」から云いつゝると思われるが、「大尾城の跡とされている」とあり、大尾城の麓の跡と混同しているようである。城地については茶臼城同様、明瞭な城郭遺構の存在する場所や伝承地がないため、詳細は不明と言おざるを得ない(本事業では現地未踏査)。
八女(東)						『軍談』には「鵜見山館跡」として「川崎二郎定宗鵜様ノ館跡也、今其地字上野云、館下字星形原ト云」とあり、『蒐延記』も同様の記載がなされる。鵜見山古城がある近辺が字鵜見山であり、おそらく前所とは推測できるものの、明瞭な城郭遺構はなく、詳細は不明と言おざるを得ない。
八女(東)				110227		『軍談』の「鵜見山館跡」の項に「又豊福村中二川崎城有ト云アリ、土入云、川崎氏ノ館跡ナリ」とある。鵜の分布地図(文献140)には豊福の太神宮の南側に館地が想定されているが、明瞭な城郭遺構は確認されておらず、詳細は不明と言おざるを得ない(本事業では現地未踏査)。
八女(東)						**『軍談』には「木村館跡」として「村中ニアリ、俗山ト云、領主詳ナラズ、恐クハ大津山氏ノ館跡ナラン」とある。また『福本八女郡史』(文献13)には、上記の記載に加え、「館山」には赤鞭旗とや寄家吉右衛門の館跡もあるとする。八女市本の立山には寺家吉右衛門の墓もあり、この立山は一所ごとかこあったものと想定されるが、明瞭な城郭遺構はなく、詳細は不明と言おざるを得ない。**
八女(西)						『軍談』には「國武村館跡」として「中野大膳館跡也」とあり、「星有ノ一町許、周ノ堀ノ跡ナドヤ残リ、此宅地ノ跡可也ト、家ノ方ニ天神祠、鬼門ニ星舎門ナドアリ」とある。『蒐延記』も「中野屋敷」として「山下城主蒲池殿三男・中野大膳光元居住屋敷であるとする。大字国武地内にあることは想定できるが、詳細な場所がわからないため、これ以上は不明と言おざるを得ない。
八女(西)				110295		『軍談』には「蒲原村館跡」として「村ノ中央ニアリ、蒲原氏ノ館跡ト云、蒲氏五段ト、四方ニ隅岡ヤリ、今ハ其内ニ入家四五軒アリ、其内二段計ハ田圃ナリ」とあり、『蒐延記』にも「祝原家屋臣の末裔蒲原次郎丸祐安住処の跡、干今館屋敷と申」とある。県の分布地図(文献140)には蒲原集落の中央付近に館地を想定しており、館敷や弓場などの字が残されていて、おそらの場所は推測できるものの、明瞭な城郭遺構は確認されておらず、詳細は不明と言おざるを得ない。
八女(西)						『軍談』には「村東ニアリ、領主吉田氏ノ館跡ナリ」とある。この他には情報が全く見当たらないため、詳細は不明と言おざるを得ない。
八女(東)	○			730002	3	本文142頁を参照。
八女(東)				730003	4	『軍談』には「立木村亀口城跡」として「馬場館跡付」として「亀ノ口城ノ裏笹ノ館ノ城西五町ニアリ、其地字馬場ト云、応仁二年元祖河内守家信構之、南面也ト、今堀ノ跡残ニ残リ」とあり、東側に「村場ノ谷」などの地名が残るとする。現在、馬場集落の中に、館地かる場所が残されているが、明瞭な城郭遺構は確認されておらず、詳細は不明と言おざるを得ない。
久留米(東)				730041	50	『軍談』には「長延村城跡両所」として「一ハ鍛七関平、横七関、西面也、一ハ鍛七関、横六関、南面也、城主詳ナラス、長延村北ノ山中ニアリ、西面鍛七関平、南面、鍛六関、横五関、城主詳ナラズ」とあるものとされるがどちらかは判別が難しい。文献13には「長延館址　上妻川村長延の北城野又城尾」として「蔡尾城可の館址とも、又蔡尾城跡ともあり、成は云ふ、此城の時代城主未だ詳らかず、長七関平横七関、大手口西の向にして、鍛より鍛ることれを一町の山城なりとある。長延の集落の北にある尾根の南端部沿(標高98m)が城地と伝えられるが、自然の平坦地がみられるばかりであり、詳細は不明である。
久留米(東)				730042	54	『軍談』には「長延村城跡両所」として「二つの城址を記載するものの内のどちらかである。文献13には「長延館址　同村(下重川村)長延西山一に北向」として「縦七関(一に六関)横六関(一に五、七関)南面の山城なり」とし、城主不詳あるいは蒲池氏の家臣・矢加部大学の拠所であったとする。文献47には西城とも、あるいは長延の自吉神社の背後にあったとから、山王山城とも呼ばれたとする。現地は果樹園造成により大々的に改変されており、現状では構造等を知ることは難しい。

地域	No.	名称	よみがな	別称	旧郡名	所在地	関連地名	史料		地誌			基本参考文献						その他	種類	所在
								一次	参考	図説	種々	旧城	全集	開設	教委	大系	廣崎	城郭			
筑後	178	藤田館	ふじた		上妻郡	八女郡広川町藤田			○										21,47	平地城館	○
筑後	179	古賀館	こが	古賀城	上妻郡	八女郡広川町新代	西屋敷		○	○	○		○			○	○	○	13,47	平地城館	●
筑後	180	川崎式部館	かわさきしきぶ		上妻郡	八女郡広川町新代					○								13,47	平地城館	△
筑後	181	川瀬城	かわせ		上妻郡	八女郡広川町広川			○	○					○	○	○	○	21,47	丘城	●
筑後	182	川瀬館	かわせ		上妻郡	八女郡広川町新代	城屋敷			○	○								13,21,47	平地城館	●
筑後	183	知徳城	ちとく	智徳城・知徳館	上妻郡	八女郡広川町広川			○	○	○		○		○	○	○	○	13,21,47	丘城	◎
筑後	184	一條館	いちじょう		上妻郡	八女郡広川町一條・筑後市一条	南屋敷・館屋敷		○	○	○							○	21,47,108	平地城館	●
筑後	185	齋藤館	さいとう		上妻郡	八女郡広川町一條													21,47	平地城館	○
筑後	186	長浜館	ながはま		下妻郡	筑後市長浜													108	平地城館か	●
筑後	187	久恵館	くえ	溝口館	下妻郡	筑後市久恵	大屋敷・新屋敷・堀内・大門・北村囲												105	平地城館か	●
筑後	188	溝口館	みぞぐち	溝口城	下妻郡	筑後市溝口	城	○	○	○	○		○	○		○	○	○	13,105,106	平地城館か	●
筑後	189	鶴田城	つるだ		下妻郡	筑後市鶴田													13	不明	△
筑後	190	水田城	みずた		下妻郡	筑後市水田	城ノ崎・上お倉・下お倉				○		○				○		13,114	平地城館か	○
筑後	191	下牟田館	しもむた		下妻郡	筑後市井田	北屋敷・脇越・下脇越			○	○							○	13,114	平地城館	●
筑後	192	中牟田館	なかむた		下妻郡	筑後市中牟田	屋敷			○	○			○		○	○	○	13,114	平地城館	●
筑後	193	中牟田城	なかむた		下妻郡	筑後市中牟田	土居ノ内			○			○	○	○	○	○	○	13,114	平地城館	●
筑後	194	馬間田城	ままだ		下妻郡	筑後市馬間田				○	○		○	○	○	○	○	○	13,114	平地城館	●
筑後	195	吉田大膳城	よしだだいぜん		下妻郡	筑後市馬間田	陣ノ内			○				○	○	○	○	○	13,114	平地城館	●
筑後	196	本郷城	ほんごう		下妻郡	みやま市瀬高町本郷		○		○	○				○	○	○	○	14,22,27	平地城館か	△
筑後	197	禅院城	ぜんいんじょう		下妻郡	みやま市瀬高町小田・廣瀬		○											22	山城	◎
筑後	198	小田城	おだ		下妻郡	みやま市瀬高町小田		○		○	○			○	○	○	○	○	14,22	山城	◎
筑後	199	吉岡城	よしおか		下妻郡	みやま市瀬高町文廣	天神屋敷・東屋敷・西屋敷				○				○	○	○	○	14,27	平地城館	●
筑後	**200**	**瀬高城**	**せたか**		**山門郡**	**みやま市瀬高町上庄**		**○**		**○**				**○**	**○**	**○**	**○**			**平地城館**	**○**
筑後	**201**	**宮園城**	**みやぞの**		**山門郡**	**みやま市瀬高町大廣園**				**○**	**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**14,22,27**	**平地城館**	**●**
筑後	202	大木城	おおき		山門郡	みやま市瀬高町大廣園					○	○			○	○	○	○	○		平地城館	●
筑後	**203**	**濱田城**	**はまだ**		**山門郡**	**みやま市瀬高町濱田**				**○**	**○**	**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**		**平地城館**	**●**
筑後	**204**	**堀切城**	**ほりきり**		**山門郡**	**みやま市瀬高町堀切**	**寺屋敷**	**○**	**○**	**○**	**○**			**○**	**○**	**○**	**○**	**○**	**14, 22, 27, 38**	**平地城館**	**○**
筑後	205	萱津城	かやつ		山門郡	みやま市山川町竹飯		○			○	○				○	○	○	22	平地城館か	△
筑後	**206**	竹井城	たけい	竹井の今城	山門郡	みやま市高田町竹飯	今城	○			○	○				○	○	○	○	**14,22,27,111**	平地城館	●
筑後	207	竹井館	たけい	竹井牡丹長者	山門郡	みやま市山川町星野	長者原				○	○							○	22,27	平地城館	◎